

令和4年度鳥獣被害対策支援活動報告会

かながわ鳥獣被害対策支援センター

令和4年度鳥獣被害対策支援活動報告会

目 次

I 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区について

1 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区の概要	1
2 令和4年度から始まった重点取組地区について	
(1) 伊勢原市子易下地区	4
(2) 大磯町高麗地区	8
(3) 南足柄市広町地区	14
3 市町村と一体となった取組地区	
(1) 小田原市上曾我地区	20
(2) 相模原市上青根地区	26

II かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

1 ドローンを用いたクリハラリスの生息状況調査の試行	30
2 市街地に隣接した農林業地域における野生鳥獣の出没状況調査	35
3 クマ被害防止の強化	40
4 豚熱に係るイノシシ広域監視	43
5 かながわ鳥獣被害対策アドバイザー制度（研修と活動）	46

III 県内の先進取組事例

NPO法人おだわらいノシカネットの活動	52
---------------------	----

参考資料	60
------	----

I 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区について

1 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区の概要

(1) 「地域ぐるみの対策」の立ち上げ支援

市町村や地域住民等が一体となって取り組む「地域ぐるみの対策」を普及していくため、「重点取組地区」を選定し、技術的支援を行っている。

令和4年度は、新たに3地区を追加選定し、令和3年度までに選定した24地区と合わせて27地区で取組を進めた。

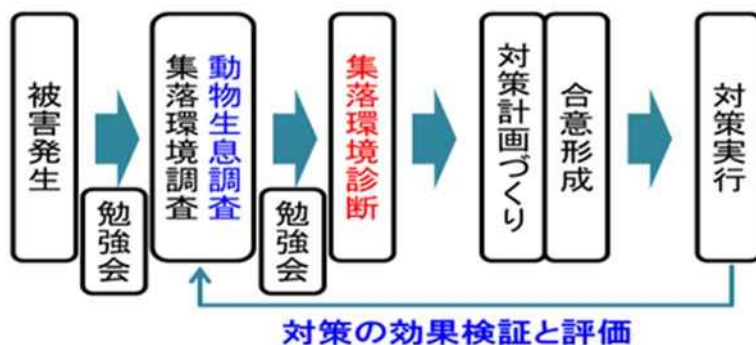
(2) 重点取組地区の対策の進め方

被害が発生している地域の現状を把握し、必要な対策について合意形成を図りながら計画を作成し実行するとともに、対策の効果検証と評価を行いながら、地域の自立を促す。

また、「地域ぐるみの対策」の普及を図るため、重点取組地区の対策の効果を広く周知するとともに、他の地域の住民が参加できる現場での被害対策技術講習会を開催する。

対策実行の手順

※耕作地単位の被害箇所数の変化等により具体的な効果を把握



※耕作地単位の被害箇所数の変化等により具体的な効果を把握



集落環境診断
(令和元年6月5日 清川村金翅地区)



ドローンを活用した集落環境調査
(令和3年6月23日 南足柄市狩野地区)の様子

(3) 重点取組地区の選定

<選定の視点>

次の視点で今年度の重点取組地区を選定した。

- 鳥獣種及び地域的に地域ぐるみの対策の空白域となっている。
- 鳥獣による人身被害が懸念されるなど、緊急に解決すべき問題がある。
- 侵略的な外来生物等の被害の初期段階にある。
- 他施策との連携により対策の相乗効果が期待できる。

<令和4年度に選定した重点取組地区>

項番	地区名	主な対象鳥獣	令和5年3月末現在の取組状況	選定の視点
1	伊勢原市子易下地区	ツキノワグマ、シカ、イノシシ、サル	毎年秋ごろにクマの出没が相次いでいた。昨年度までに勉強会や集落環境調査を行っており、令和4年6月に放棄果樹の伐採を実施し、9月～11月に放棄カキ落としや電気柵の設置を行った。集落環境整備により当該地域ではクマの出没がなかった。	b、d
2	大磯町高麗地区	イノシシ、アライグマ、ハクビシン、タヌキ等	イノシシやタヌキ、アライグマ、ハクビシン等が人家付近に出没し、近接する耕作放棄地等が移動ルートや休憩所になっていた。昨年度までに集落環境調査等を行っており、令和4年8月に勉強会を行ったほか、同年4月から令和5年1月までに4回集落環境整備を実施した。 定期的な環境整備が必要なため、マンパワー不足の解消が課題。	b
3	南足柄市広町地区	シカ、イノシシ	地域内で多くの痕跡が見つかり、耕作放棄地等が点在していた。 令和4年5月に踏査調査を行い、同年9月に鳥獣被害対策協議会を立ち上げた。その後センサーカメラによる出没調査や集落環境整備により、イノシシの出没数を減少することができた。 地権者と連絡がつかない耕作放棄地や対策箇所、防護柵の普及が必要。	a、d

<これまでに選定した重点取組地区での取組>

実施年度	地区名	主な対象鳥獣
令和3年度 (3地区)	小田原市橘地区	イノシシ、シカ
	南足柄市狩野地区	イノシシ、シカ
	清川村煤ヶ谷御所垣戸地区	イノシシ、シカ
令和2年度 (3地区)	相模原市緑区澤井、佐野川地区	サル、イノシシ
	横須賀市津久井地区	ノウサギ、ヒヨドリ等
	山北町清水、三保地区	サル
令和元年度 (7地区)	川崎市麻生区、岡上地区	アライグマ、ハクビシン
	相模原市緑区鳥屋(とや)地区	イノシシ、サル、シカ
	厚木市小野、七沢、上古沢、下古沢、森の里地区	サル
	綾瀬市深谷上地区	アライグマ
	清川村金翅(こんじ)地区	イノシシ、サル、シカ
	秦野市平沢小原地区	イノシシ
	小田原市上曾我、曾我大沢地区	イノシシ、シカ
平成30年度 (5地区)	横須賀市東浦賀町2丁目地区	サギ
	愛川町田代(平山)地区	イノシシ
	藤沢市葛原地区	ノウサギ等
	大磯町生沢・寺坂地区	イノシシ、ハクビシン等
	湯河原町鍛冶屋・城堀・宮下地区	イノシシ、サル
平成29年度 (6地区)	葉山町二子山地区	イノシシ
	相模原市緑区名倉地区	イノシシ、シカ
	平塚市土沢地区	イノシシ、シカ
	茅ヶ崎市萩園地区(堤地区)	アライグマ、(クリハラリス)
	二宮町一色地区	イノシシ、シカ
	大井町高尾地区	イノシシ、シカ、ハクビシン

【参考】地域ぐるみの鳥獣被害対策の状況

凡例

- : H24 年度～H28 年度の取組地域
- ★ : H29～R 3 年度選定重点取組地区
- ☆ : R 4 年度選定重点取組地区



(4) これまでの取組の成果

- ・鳥獣被害対策の普及啓発が進み、3つの基本対策に対する共通理解が深まった。
- ・いくつかの地域で地域ぐるみの対策に取り組む体制が立ち上がり、自立した取組が継続している。
- ・市町村と一体となった支援により大学、専門学校、農協、自治会など多様な主体との連携が促進されつつある。
- ・アドバイスや指導により、捕獲が進んだ、被害がなくなったなどの声が聞かれる。
- ・ドローンなどの新技術の導入により、対策の推進にかかる負担が軽減された。
- ・重点取組地区の隣接地等で、自治体が地域ぐるみを取り入れる例が出てきている。

(5) 今後の課題・方向性

- ・これまで支援した重点取組地区において、地域ぐるみの対策の立ち上げ支援が他地区に波及せず、浸透していない地域が多くあるので、市町村を中心とした立ち上げ支援が進むよう、各市町村の実情に合わせ支援・指導が必要である。
- ・重点取組地区や県と市町村が一体となって支援した地域へのフォローアップの支援及び周辺への波及促進や多様な主体との連携促進に向けた支援を継続していく。

I 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区について

2 令和4年度から始まった重点取組地区について

(1) 伊勢原市子易下地区

① 地域の概要

丹沢山系のふもとに位置し、真後ろに大山が存在する自然豊かな土地柄である。また、畑や果樹園も多く、農業が盛んな地域といえる。

しかしそんな土地柄ゆえに野生動物との距離が近く、しっかりとした対策が求められる地域である。特に毎年秋にはクマの出没が相次ぐので、カキ園を中心に電気柵などで適切な防除が必要になる。

② 令和4年度の取組み内容

ア 勉強会・集落環境調査

本地域は昨年度までに勉強会、集落環境調査を行っているため今年度は実施せず。

[地域の課題]

- ・環境調査の結果から整備が必要だと判断された放置カキ園での集落環境整備。
- ・広域防護柵の維持管理のための点検、補修。
- ・クマの誘引物除去のための放棄カキのカキ落とし、カキ園での電気柵設置。

イ 対策実行

- ・子易下地区放棄果樹伐採（令和4年6月24日）

昨年度までに集落環境調査によって整備が必要だと判断した放置カキ園で草刈りと伐採作業を行った。

- ・大山柵点検（令和4年6月3日、令和4年12月13日）

子易下地域の広域防護柵の点検、補修作業を行った。

- ・放棄カキのカキ落とし、カキ園の電気柵設置(令和4年9月～11月)

クマを誘引しないために放置されたカキの実を落としたり、生産されているカキ園を電気柵で囲うなどの対策を行った。

- ・ドラム缶わな設置(令和4年9月～11月)

クマの出没があった地域で、電気柵や誘引物除去等対策をした後も出没し続けた個体に対して捕獲を実施した。

③ 成果

- ・柵点検を定期的に行うことで地域内の対策を継続する体制が強固になった。
- ・集落環境整備としてカキを伐採したことでクマの利用はなくなった。

④ 今後の課題

- ・環境整備を行ったことで別の地点のカキを利用するようになったため、今後そちらの対策も必要不可欠。また、伐採作業を行った場所は、日当たりが良くなったことで雑草が繁茂し、イノシシ等他の動物が利用している痕跡がみられるようになったため、草刈り等の継続した管理が必要。

令和4年度 重点取組地区活動報告

伊勢原市子易下地区

かながわ鳥獣被害対策支援センター
鳥獣被害対策専門員 加藤 光太

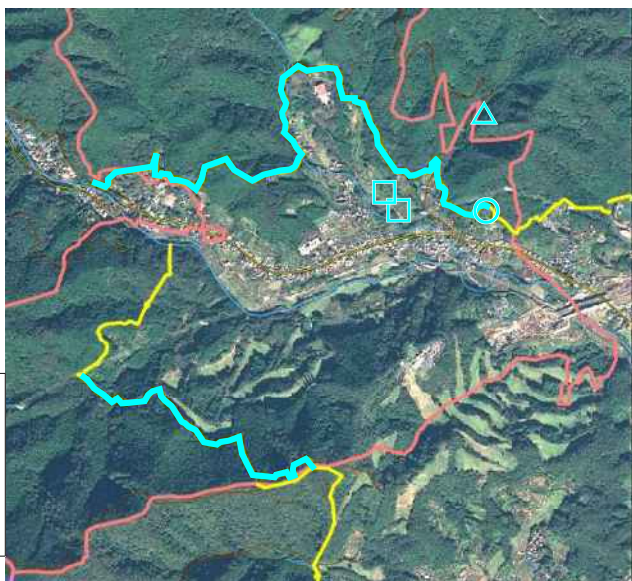
2 取組み内容

・以前からクマの出没があった放棄カキの伐採、環境整備。

・秋にクマの出没状況の調査、痕跡があったカキ園の対策。

・総合的な対策としての広域防護柵の点検。

- 凡例
- ：果樹伐採(重点取組)
 - △：カキ落とし
 - ：電気柵
 - ：柵点検
 - (—)：広域防護柵



1 地域の概要

主な農作物：カキ、クリ
対象動物：ツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル



果樹伐採 (6/24)



・参加者
地域住民、伊勢原市、支援C、学生

・使用道具
チェーンソー、草刈り機、なた、のこぎり



果樹伐採 (伐採後12/14)

イノシシ痕跡



- ・クマの痕跡はなかったがイノシシの痕跡は多くみられた。
- ・隣接のカキにはクマの痕跡あり。
- ・夏頃確認の際は、ヤブで覆われていた。

【課題】

- ・周辺環境整備
- ・ヤブ化の防止
- ・他獣種の対策



カキ落とし



- ・痕跡や目撃情報を元に現地調査を行い、必要に応じ、伊勢原市、湘南C、支援C職員で実施。



電気柵設置



- ・生産柿やカキ落としができない場合に設置。



大山柵点検

- ・年に4回行っている。
- ・参加者：地元住民、猟友会、JA職員、伊勢原市、湘南C、支援C、(学生)、(県庁)
- ・参加者を4班に分け半日程度で見回り、簡易な補修の実施。
- ・広域柵があることで大幅に獣の侵入を防ぐことができる。
- ・広域柵を張った後の管理が行き届かない事例が多い中で、関係者が一体となって管理できている良い例。



3 成果

- 柵点検を定期的に行うことで地域内の対策を継続する体制が強固になった。
- 集落環境整備としてカキを伐採したことでその地域でのクマの出没はなくなった。



4 今後の課題

- 周辺の未対策カキ
- ヤブ化防止のための草刈り等
- イノシシ等他の獣害対策

I 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区について

2 令和4年度から始まった重点取組地区について

(2) 大磯町高麗地区

① 地域の概要

大磯丘陵の東端に位置しており、平塚市と大磯町にまたがる高麗山に近接している。獣の生息域と人家が近く、人身事故や生活被害が懸念されている。



② 令和4年度の取組み内容

ア 集落環境調査および動物生息調査（令和3年度～）

- ・踏査調査：令和3年9月2日
- ・自動撮影カメラ調査：令和4年2月～

[地域の状況および課題]

- ・イノシシやタヌキ、アライグマ、ハクビシン等が人家付近に出没している。
- ・近接する高麗山や耕作放棄地・ぬた場、更地が移動ルートや休憩所になっている。

イ 集落環境診断、勉強会（令和4年8月4日）

- ・生態、調査および取組み前の環境整備の結果を報告。

[対策方針]

- ・耕作放棄地と更地の環境整備を実施する。
- ・更地で実施可能な防除対策を検討、試行する。

ウ 対策実行および取組み

- ・高麗山林縁部と学習館植え込みの環境整備（令和4年4月18日、同年5月19日）
- ・耕作放棄地と更地の環境整備（令和4年10月8日、令和5年1月29日）
- ・更地のぬた場（2か所）のうち1か所を防草シートで覆い、もう1か所を伐採した竹や樹木で埋め、獣の利用頻度の軽減を図った。

③ 成果

- ・環境整備により獣の出没を減らすことができた。
- ・更地のぬた場（2か所）：防草シートで覆うよりも環境整備で伐採した竹などでぬた場を埋めた方が獣の利用頻度が減り、廃棄物の利用による対策が有効であることが分かった。

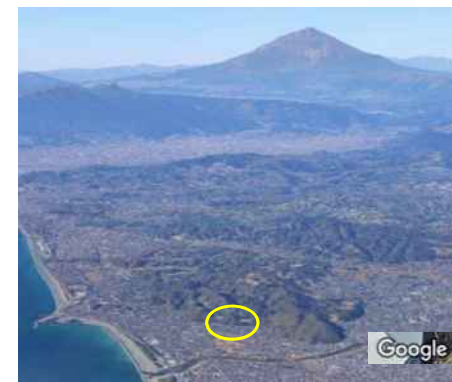
④ 今後の課題

- ・高麗山林縁部から獣が出没するため、定期的な環境整備の必要がある。マンパワー不足解消のため学生ボランティアなど、参加者の募集を提案していく。
- ・中型動物捕獲については、令和3年度には住民によって有害捕獲が行われたが、4年度はほとんど実施されていない。再び増やさないために捕獲の継続が必要である。

令和4年度 重点取組地区活動報告 大磯町高麗地区

かながわ鳥獣被害対策支援センター
鳥獣被害対策専門員 朝原 久子

① 地域概要



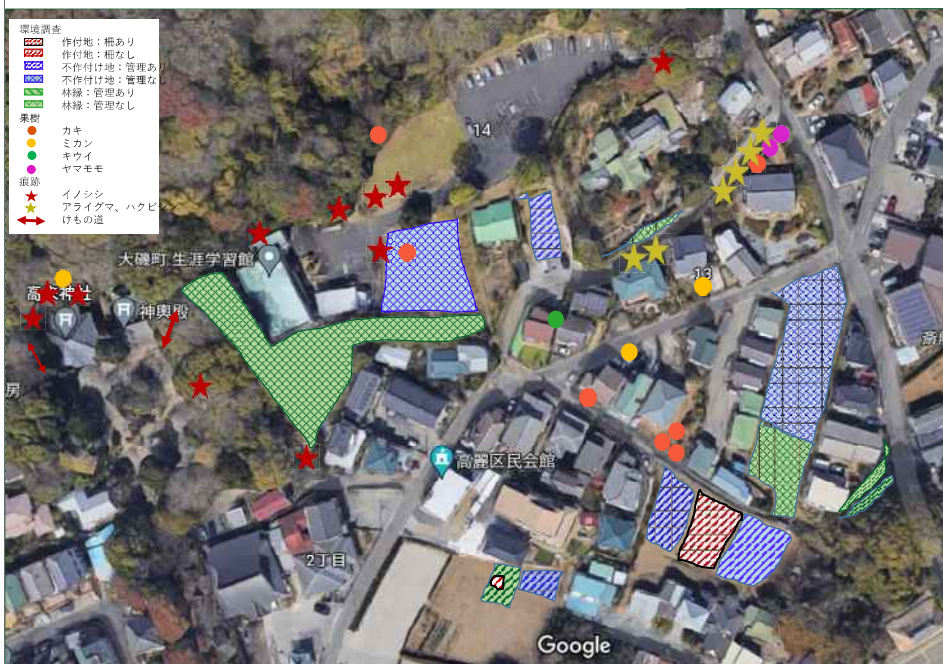
対象動物

イノシシ、シカ、タヌキ
ハクビシン、アライグマ

主な被害

住宅地出没、生活被害

集落環境調査 (令和3年9月2日)



② 令和4年度の取組み内容

ア 集落環境診断および動物生息調査 (令和3年度～)

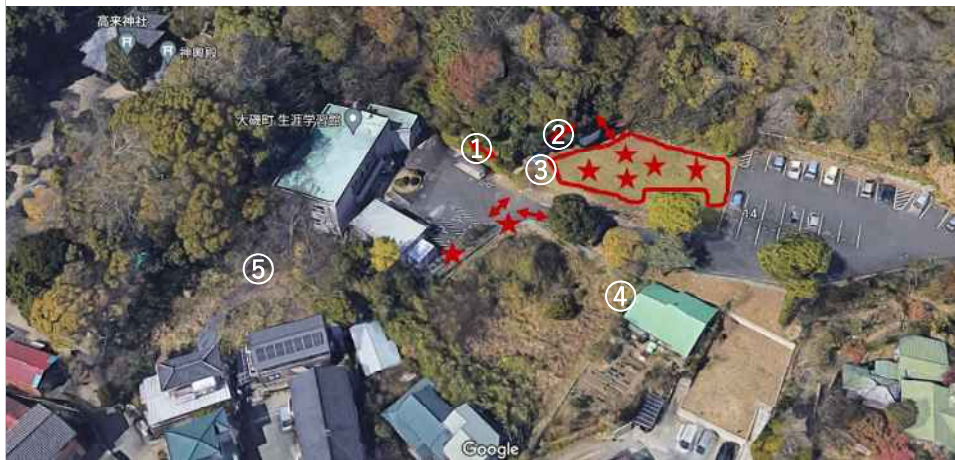
- ・踏査調査 令和3年9月2日
- ・自動撮影カメラ調査 令和4年2月～現在。

(取組み以前から大磯町からの被害対策の相談に対応)



取組み前に大磯町、保全C、支援Cによる高麗山林縁部の藪刈りを実施。

令和4年春 イノシシの掘り返しが顕著
 自動撮影カメラ調査（令和4年2月～現在）



★ イノシシ痕跡
 ⇄ けもの道
 ①～⑤ 自動撮影カメラ



取組み前の環境整備

高麗山林縁部の藪刈り

林縁部 令和4年4月18日

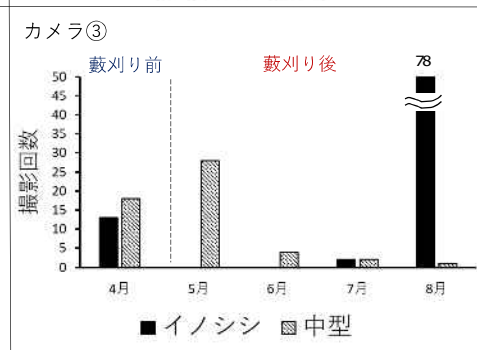
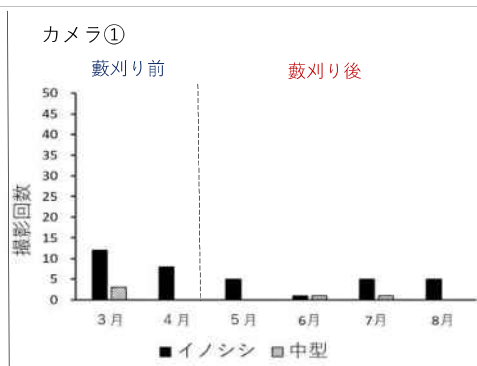
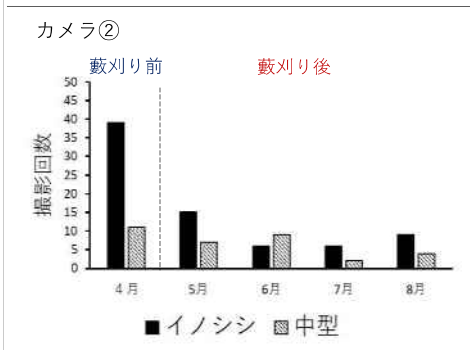
学習館植え込み 令和4年5月19日



林縁部 令和4年4月18日



自動撮影カメラの結果



学習館植え込み 令和4年5月19日



イ 集落環境診断 勉強会 令和4年8月4日

- 生態、調査および取組み前の藪刈り結果を報告。

【地域の課題】

- 獣が人家付近に出没する。
- 獣が近接する高麗山をねぐらやひそみ場、移動ルートとして利用している。
- 獣が耕作放棄地や更地をぬた場や休息所として利用している。

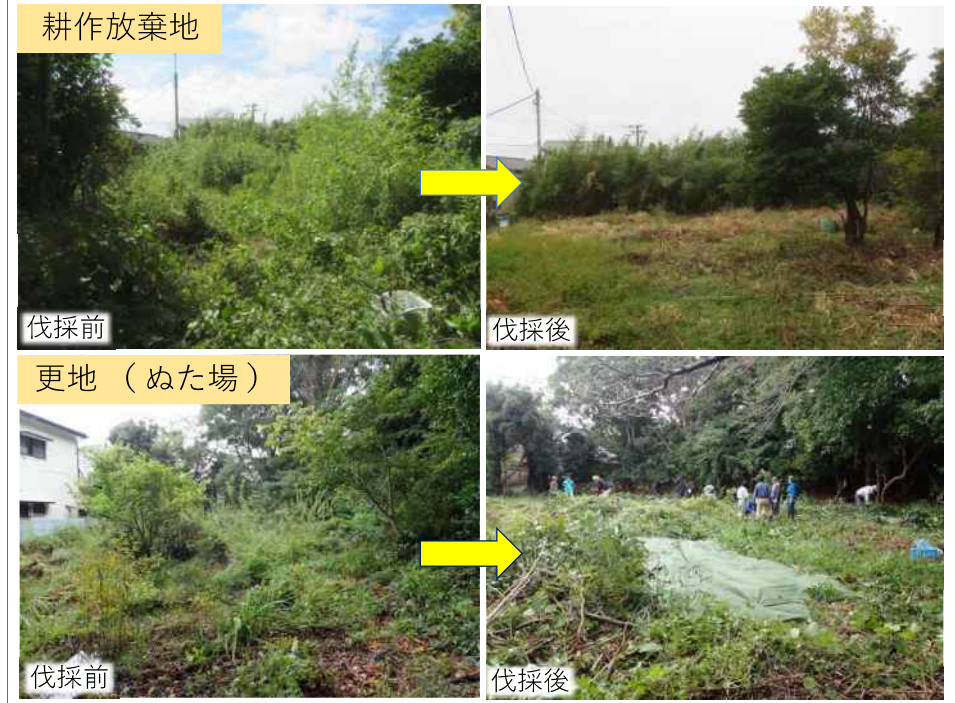
【対策の方針】

- 耕作放棄地とぬた場となっている更地の環境整備。
- 更地で実施可能な防除対策を検討、試行。

ウ 対策実行 および取組み

◆ 耕作放棄地とぬた場となっている更地の環境整備

(令和4年10月8日 令和5年1月29日)



◆ ぬた場の防除対策を試行

目的 獣がぬた場を利用することを軽減させる。

方法 2か所あるぬた場の1ヶ所を法面防草シートで覆い、もう1ヶ所を伐採した樹木で埋める。

試行期間 令和4年10月8日～令和5年1月29日

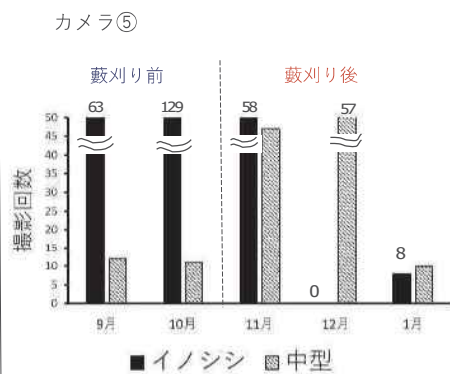
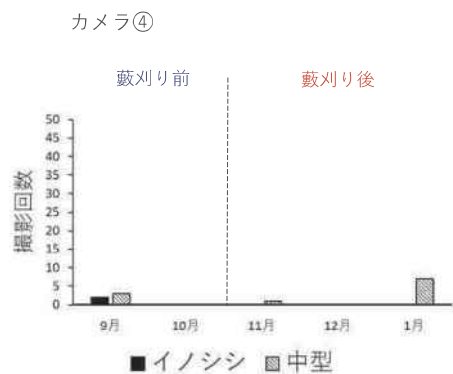
資機材 ・防草シート 1×1.3m
・ペグ 24本



ぬた打ちをするイノシシ



自動撮影カメラの結果



③ 結果および成果

法面防草シートでの利用頻度は減ったが滞在時間がわずかに増加した。また、樹木で埋めたぬた場での獣の利用がなくなったことから伐採した竹、樹木でぬた場を埋める方が獣の利用を軽減し、廃棄物の有効利用による対策が有効であることが解った。



法面防草シートを外し、耕作放棄地で伐採した竹を利用

(令和5年1月8日)

④ 今後の展望

◆ 出没する獣の対策

今後も自動撮影カメラによる監視を続け、動物の移動ルートを把握し、人家周辺の出没を減少させる。

◆ 集落環境整備

住宅地に近接する耕作放棄地および更地の藪刈りやぬた場を埋めた結果、地区内での獣の出没が減少した。今後も町、県、学生ボランティアと協力することで環境整備が進むと考えられる。

◆ 中型野生動物の捕獲の検討

令和3年度と比べ、町の中型野生動物の捕獲おり貸し出しが減っているため、捕獲おり貸し出しの普及を図りたい。

I 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区について

2 令和4年度から始まった重点取組地区について

(3) 南足柄市広町地区

① 地域の概要

広町自治会は広域にわたり、山林、農家集落、住宅地など形態も様々である。また、昔からの農家集落、新興住宅地の両方が存在する。

ここ数年、イノシシ・シカによる被害や目撃が増加しており、住宅地付近でも出没や被害がみられる。農地には各農家が電気柵等の防除を行っているが、被害は増加傾向にあるため、効果的な対策について検討、実施を行い、結果を踏まえて地域ぐるみで被害対策に取り組む組織体制についても検討を行った。



② 令和4年度の実施内容

ア 集落環境調査

- ・踏査調査（令和4年5月9日）

[地域の課題]

- ・調査により動物の痕跡が地域内で多く見つかった。
- ・電気柵の設置方法を誤っている農地が点在していた。
- ・耕作放棄地、所有者が高齢化し藪になりかけている耕作地が点在していた。

イ 集落環境調査結果報告会（令和4年7月2日）

[対策方針]

- ・効果的な柵の設置方法について勉強会を行う。
- ・対策協議会を設立し、組織的な対策を図る。

ウ 電気柵講習会（令和4年8月21日）

エ 鳥獣被害対策協議会

第1回（令和4年9月14日）

第2回（令和4年12月4日）

- ・集落環境整備や柵による防護を進めることとした。
- ・地域内の優先的に整備する場所を決定し、対策実行することとした。

オ 対策実行

- ・集落環境整備（令和4年10月12日）
- ・センサーカメラ設置（令和4年9月30日～11月17日）
- ・ドローンによる集落環境調査（令和4年11月17日）

③ 成果

- ・自治会内で対策協議会が設立した。
- ・集落環境整備によりイノシシの出没数が減少することを確認できた。

④ 今後の課題

- ・地権者と連絡が付かない耕作放棄地での対策。
- ・広町地区が広域であるため対策箇所を増やしていく必要がある。
- ・防護柵の設置があまり進んでいないため更なる普及啓発が必要。

令和4年度 重点取組地区活動報告

南足柄市広町地区

かながわ鳥獣被害対策支援センター
鳥獣被害対策専門員 島田 駿



1 地域概要

○地域の特徴

広域農道沿いに鳥獣の生息域と人家がそれぞれ点在

○主な加害動物

イノシシ・シカ

○被害内容

農作物被害
生活被害
意欲低下
地域内での出沒

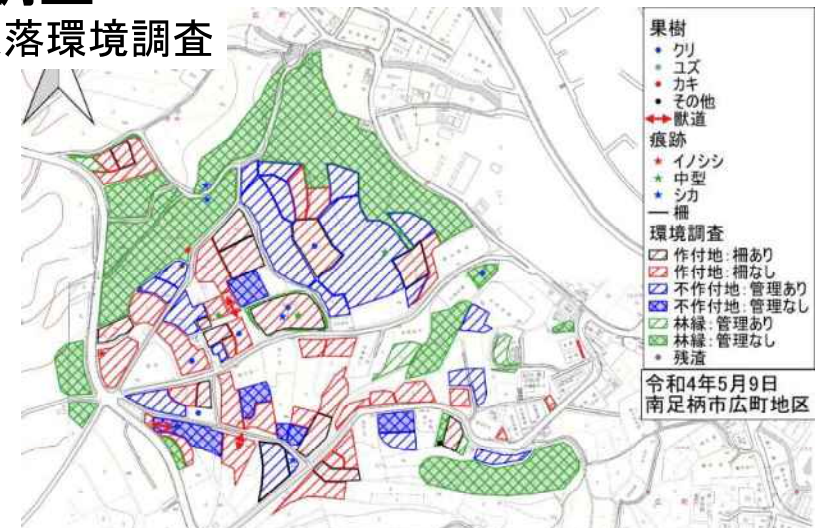
地域内では各農家が電気柵等で防護を実施しているが、被害は増加傾向

1 地域概要



2 調査

○集落環境調査



- ・全体的に藪刈等の管理が進んでいた
- ・柵は設置されていたが半分以上が通電なしの電気柵

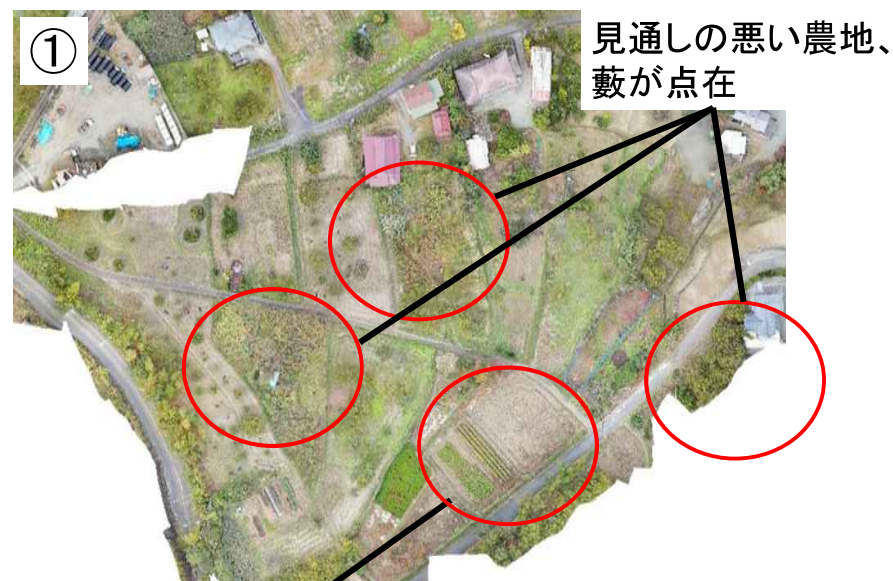
2 調査 ○ドローン調査



高齢化で手が入らなくなったクリ園



2 調査 ○ドローン調査



農地内の痕跡は柵の有無で明らかに違った

2 調査 ○ドローン調査



2 調査

精米所のもみ殻



2 調査

精米所近辺



2 調査

【地域共通の課題】

- ・電気柵の碍子が**内向き**になっている農地が散見された
- ・**規模の大きい**竹藪が点在



3 取組み

- 集落環境調査結果報告会（令和4年7月2日）
調査結果報告、会議
- 電気柵講習会（令和4年8月21日）
鳥獣被害対策協議会設立
- 鳥獣被害対策協議会
第1回（令和4年9月14日）
第2回（令和4年12月4日）
- 話し合いで決まった今後の方針
 - ・集落環境整備や柵により防護する
 - ・協議会で地域の優先的に整備したほうが良い場所を決めて対策を実施する

3 取組み

○クリ園にて環境整備を実施(令和4年10月12日)



before



after

3 取組み

園内の様子



before



after

3 取組み

センサーカメラによる効果検証

園内の様子



before

3 取組み

センサーカメラによる効果検証

園内の様子

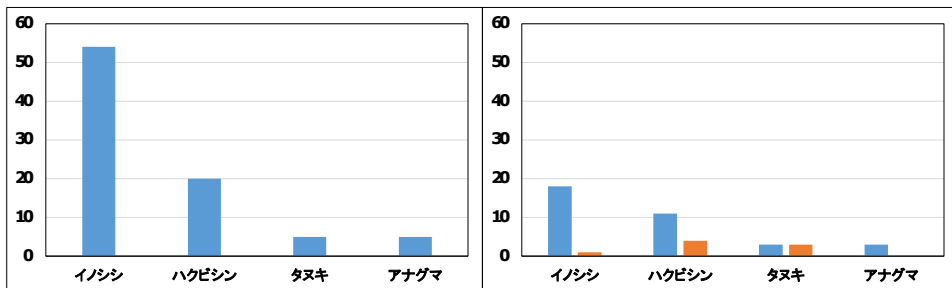


after

3 取組み

センサーカメラによる効果検証

撮影頻度



10月1日～12日

before

10月13日～31日

11月1日～17日

after

3 取組み

センサーカメラによる効果検証

○環境整備前

イノシシとハクビシンの撮影が多い。クリ目的。

○環境整備後

動物の撮影は全体的に減少。

特にイノシシは1/3にまで減った。

ハクビシンがあまり減っていないので近くにねぐらができているかもしれない

4 成果・課題

○本年度の成果

- ・自治会内で対策協議会を設立した
- ・集落環境整備によりイノシシの出没数が減少することを確認できた

○課題

- ・地権者と連絡が付かない耕作放棄地での対策
- ・広町地区が広域であるため対策箇所を増やしていく必要がある
- ・防護柵の設置があまり進んでいないので更なる普及啓発が必要

○今後の予定

- ・精米所近辺の環境整備
- ・対策協議会での報告

- I 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区について
 3 市町村と一体となった取組み地区

令和4年度 多様な主体による活動 スタートアップ事業

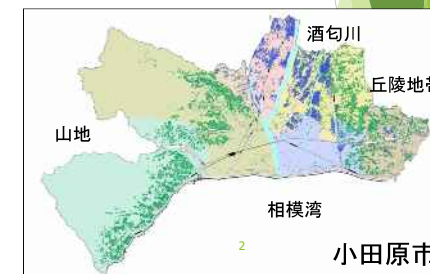
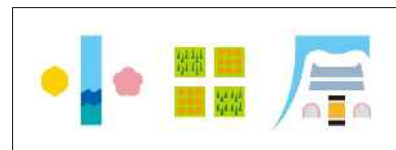
小田原市上曾我地区

令和5年3月17日（金）
 小田原市経済部農政課

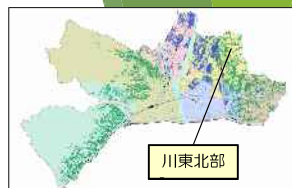
1

小田原市について

- ・神奈川県西部に位置し、森里川海が揃う
 風光明媚な自然環境と温暖な気候
- ⇒ 地域資源を生かした多くの農産物が生産



上曾我地区について



- ・小田原市北東部に位置し、曾我丘陵と豊かな
 田園地帯を中心に、自然環境に恵まれた地域
- ⇒ 柑橘・梅・キウイフルーツ、米等を生産



3

上曾我地区について

- ・地域団体による里地里山の保全活動
 - ・農業者等による鳥獣被害対策
- ⇒ 「JAかながわ西湘曾我支店鳥獣被害対策
 委員会」による組織的な活動



J A かながわ西湘曾我支店 鳥獣被害対策委員会について

- ・発 足 平成29年4月1日
- ・会員数 22名（発足時は5名）
※農業者を中心とした組織
- ・活動内容

上曾我・曾我大沢地区を中心に
イノシシやニホンジカの捕獲



J A かながわ西湘曾我支店 鳥獣被害対策委員会について

【ジビエ利用の推進】

- ・捕獲後の処理負担の軽減
 - ・捕獲個体の有効活用
- ⇒ 松田町寄にある食肉処理加工施設と連携

6

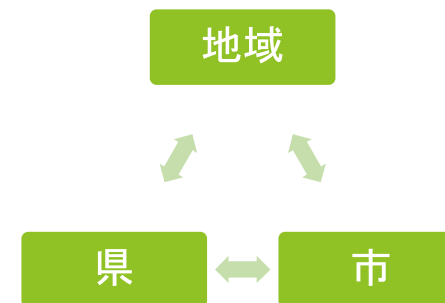
J A かながわ西湘曾我支店 鳥獣被害対策委員会について

- ・令和元年11月、12月に
小田原市役所7階食堂
でジビエ料理を提供。
- ・令和3年3月～J A かながわ西湘農産物直売所
「朝ドレファ～ミ♪」成田店にてジビエ肉を販売。
- ・地域団体「そがやまみらいプラン」
と連携し、ジビエ肉を活用した
オリジナルレシピを考案



上曾我地区における 鳥獣被害対策について

- ・令和元年度に、県から地域ぐるみの鳥獣被害
対策の重点取組地区として認定



8

上曾我地区における 鳥獣被害対策について

- ・約800mに及ぶメッシュ柵を設置し、イノシシによる食害や掘り起こし等の農業被害ゼロに成功
- ・イノシシのひそみ場となっていたやぶや耕作放棄地の解消にも寄与



鳥獣被害対策における 3つの基本対策

被害防護対策

鳥獣の捕獲

集落環境整備

⇒ 「多様な主体による活動スタートアップ事業」
を活用した“集落環境整備”を実施

10

実施場所

◎農地の活用状況と集団性を重視

- ・地域一帯でキウイフルーツを栽培しており、栽培需要が高い
- ・今後における担い手への農地集積

⇒ 境川エリアで実施

11

実施場所



12

実施場所



集落環境調査

- ・ かながわ鳥獣被害対策支援センターの協力により、ドローンによる調査を実施



14

集落環境調査



実施内容

【集落環境整備】

- ①防風林の伐採



【被害防護対策】

- ②メッシュ柵の設置



①防風林の伐採



①防風林の伐採



①防風林の伐採 (民間事業者との連携)

- ・ 県内初の認定鳥獣捕獲等事業者でもある「ALSOK神奈川株式会社」と連携

⇒ 防風林の伐採を実施

JA 曾我支店
鳥獣被害対策
委員会



ALSOK
神奈川(株)

18

②メッシュ柵の設置



②メッシュ柵の設置 (地域団体との連携)

- ・農地再生プロジェクトに取り組む「そがやま
みらいプラン」と連携

⇒ メッシュ柵の設置を実施

JA曾我支店
鳥獣被害対策
委員会



そがやま
みらいプラン

21

②メッシュ柵の設置



活動の結果

①防風林の伐採

- ・日当たりや見通しが良好
- ・イノシシの出没頻度は減少

②メッシュ柵の設置

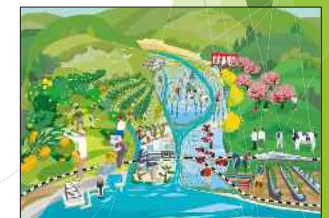
- ・柵内への農業被害は0
- ・周辺農地への侵入防止にも寄与

⇒ 地域住民へ地域課題を発信

23

今後の展望

- ・JA曾我の里支店運営委員会で本取組を発表
- 地域の農業者との更なる「地域ぐるみの
鳥獣被害対策」を推進
- ・今回整備した樹木粉碎機等の機械やノウハウを活用
- 引き続き、集落環境整備を実施
- ⇒ 持続可能な地域づくりを実践

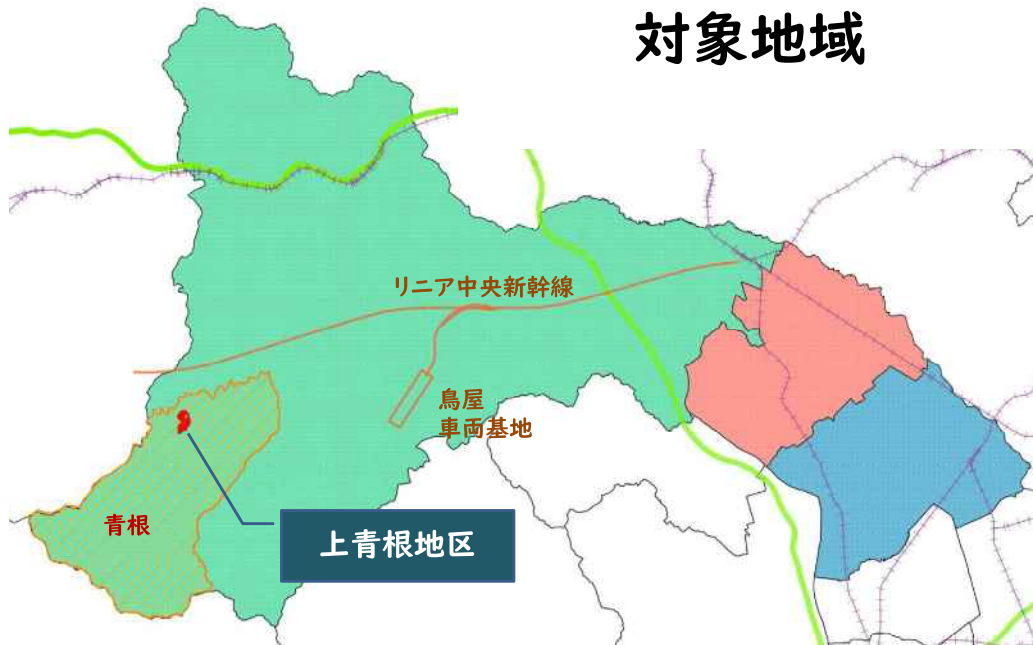


I 地域ぐるみの鳥獣被害対策重点取組地区について
3 市町村と一体となった取組地区

令和4年度 多様な主体による活動スタートアップ事業
相模原市緑区青根 上青根地区

相模原市緑区役所 区政策課 鳥獣対策班

対象地域



事業の目的

- 「相模原市鳥獣被害防止計画」を柱とした、「地域ぐるみの被害対策」の推進
- ドローンを活用し、調査精度や頻度を向上させることによって、地域ぐるみの被害対策等の推進に資する
- 地域、猟友会、大学関係団体と連携体制をつくる

上青根地区の農業

水稻(米、酒米)、リンゴ、
ハウストマト、野菜 等



様々な団体が活動中

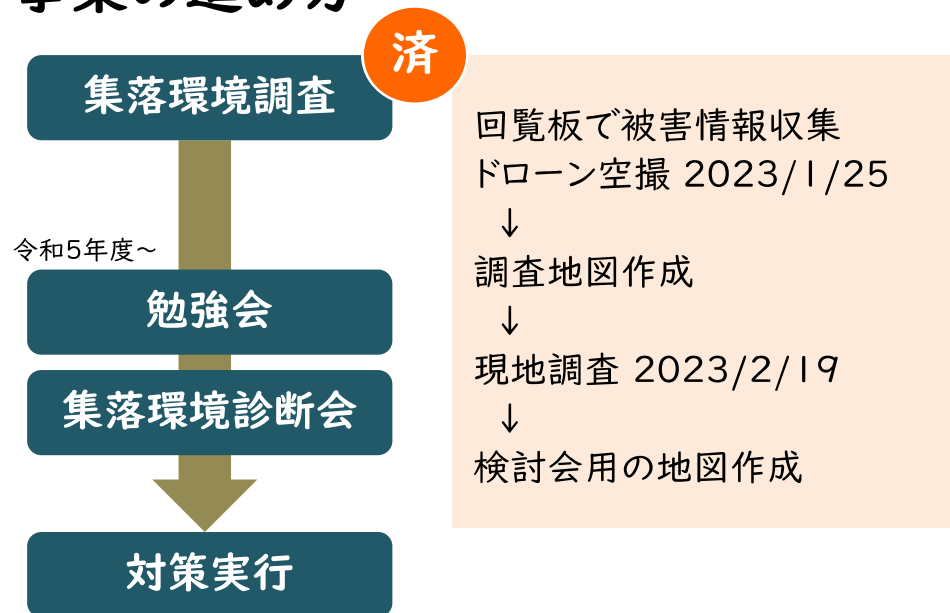
- 農業団体
- 農業法人
- 麻布大学(あざおね社中)
村山史世 准教授

上青根地区の被害状況



シカ: 集落内に大量出没
イノシシ: 水稻被害
中型獣: 野菜被害
ヤマビル多い

事業の進め方



回覧板で被害情報収集



ドローン空撮(2023/1/25)



ドローン: Mavic 2 Enterprise (県産業振興課より借用)
パイロット: 猟友会有志(令和3年度 協議会予算でライセンス取得)
★支援C石川マネージャー: 操縦技術指導、地図作成補助

調査地図作成(使用ソフト:QGIS)



現地調査(2023/2/19)



地域住民、生産者ら20名程が参加し、シカやイノシシの被害が多い場所を見て回った

↑シカのけもの道



麻布大学との連携調整(2023/2/28)

【生命・環境科学部】 地域環境政策研究室
フィールドワーク研究室

【獣医学部】 野生動物学研究室・動物行動管理学的研究室
環境生物学研究室(寄生虫)

- 上青根地区を学生のPBL(課題解決型学習)のフィールドとし、動物調査や被害対策に大学が協力
- 住民向け勉強会の講師を大学から派遣
- ヤマビル調査方法と対策手法検討(R5卒論)
- ドローンを使った動物調査の研究(未定)

麻布大学 現地調査(2023/3/12)

柵の強度、メッシュの大きさをチェック
シカが柵内の作物を食害



動物行動学の先生
フィールドワーク研究室 江口祐輔 教授
動物行動管理学的研究室 加瀬ちひろ 講師

麻布大学 現地調査(2023/3/12)



3月:新ドローン(DJI Mavic3)導入



新機能:全方向障害物検知
追い払い等の被害対策や動物調査、環境調査等で
ドローンを活用していく

Ⅱ かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

1 ドローンを用いたクリハラリスの生息状況調査の試行

① 目的

クリハラリスの生息状況調査は人が実施しているため、調査は目視でき、立ち入り可能な範囲に限られている。そこで、クリハラリスの生息状況をより正確に把握するため、広範囲の調査が期待されるドローンによる生息状況調査を試行し、従来の方法と比較することで利点や欠点等を調査し、実用性を検討する。

② 対象地域

横浜市戸塚区舞岡公園

③ 実施内容

ア 実施期間

- 契約期間：令和5年2月14日～令和5年3月24日
- 業務打合せ：令和5年2月20日
- 調査実施日：令和5年3月6日

イ 方法

従来の方法によるコールバック調査及びドローンを用いたコールバック調査を行う。

⇒ドローンの高度の上下等飛行方法による効果や影響、音声の聞こえ方、カメラによるクリハラリスの確認の可否を試行

④ 結果と考察

地上に設置したスピーカーとドローンに搭載したスピーカーによる音声再生では、ドローン搭載スピーカーのほうが音声の届く範囲が大幅に広がった。

しかし、今回の調査ではドローンからの音声に誘引されていると断定できるほどのデータは蓄積できていないため、広範囲での生息調査に向いているかどうかは分からない。また、ドローン搭載カメラでは動画の撮影も行ったが個体の確認をすることはできなかった。

ただし、ドローンの飛行に対して近くのクリハラリスは警戒し、木や葉の陰に身をひそめる行動が確認でき、ドローン飛行が終了すると再び活発に動くことや多くの鳴き声も確認できた。このことは警戒→安心のような心情の変化による行動の変化であることも考えられるため、クリハラリスが生息しているかどうか分かっていない地域で生息状況調査をする際にも応用することができる可能性がある。

⑤ 今後について

ドローンの離発着による行動の変化が確実なものであると確認できれば、生息が確認できていない地点での調査をより効率的に実施できる可能性がある。

令和4年度

ドローンを用いたクリハラリスの 生息状況調査の試行

かながわ鳥獣被害対策支援センター
下川 彰

1 目的

- クリハラリスの生息状況調査は人が実施しているため、調査は目視でき、立ち入り可能な範囲に限られている。
- そこで、クリハラリスの生息状況をより正確に把握するため、広範囲の調査が期待されるドローンによる生息状況調査を試行し、従来の方法と比較することで利点や欠点等を調査し、実用性を検討する。

2 対象地域

- 横浜市戸塚区 舞岡公園



3 実施内容

ア 実施期間

契約：令和5年2月14日（火）

業務打合せ：令和5年2月20日（月）

調査実施日：令和5年3月6日（月）

3 実施内容

イ 方法

従来の方法によるコールバック調査及び
ドローンを用いたコールバック調査を行う。

コールバック調査とは・・・
録音したクリハラリスの音声を流して誘引し、
鳴き声・出現数等によりクリハラリスの生息状況を
調査する。



3 実施内容

ドローンを用いたコールバック調査



○スピーカーを搭載したドローンにより上空からクリハラリスの音声を流しながら飛行する。

○生息状況は、目視とともにドローン搭載カメラでも把握可能か調査をする

3 実施内容

ウ 調査項目

- 従来の方法：音声の聞こえ方、生息状況
- ドローンを用いた方法：高度の上下等飛行方法による効果や影響、音声の聞こえ方、カメラによるクリハラリスの確認の可否、生息状況

4 結果と考察

○地上に設置したスピーカーとドローンに搭載したスピーカーでは、ドローン搭載スピーカーのほうが音声の届く範囲が大幅に広がった。

4 結果と考察

○しかし、今回の調査ではドローンからの音声に誘引されていると断定できるほどのデータは蓄積できていないため、広範囲での生息調査に向いているかどうかは分からない。

○また、ドローン搭載カメラでは動画の撮影も行ったが個体の確認をすることはできなかった。



ドローン撮影地点1

ドローン撮影地点2

ドローン撮影地点3

4 結果と考察

○ただし、ドローンの直下のリスは警戒しているためか木や葉に隠れる様子が確認できた。



4 結果と考察

○ドローン飛行が終わると再び姿を現し、エサを食べたり、鳴き声を発していた。



4 結果と考察

○ドローンのプロペラ音が聞こえず、スピーカーの音が聞こえる範囲のリスは特に気にしている様子は無いように思われた。



5 今後について

ドローンの離発着による行動の変化が確実なものであると確認できれば、生息が確認できていない地点での調査をより効率的に実施できる可能性がある。

II かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

2 市街地に隣接した農林業地域における野生鳥獣の出没状況調査

(1) シカの市街地出没傾向調査

① 目的

野生鳥獣の被害は農林業地域だけでなく、隣接した市街地での出没も問題になっている。そのため、地域ぐるみの取組を推進するためには、農業被害だけでなく市街地出没に伴う生活被害も考慮する必要がある。近年、県内でもシカの突発的な市街地出没は増加傾向にあり、関係機関が連携した緊急対応を求められることが多くなっている。そこで、シカの市街地出没に係る原因と傾向を把握することで、地域が行う事前予測や対策等の基礎資料とし、地域ぐるみの取組支援に活用する。

② 対象地域

厚木市、秦野市

③ 実施内容

(a) 実施期間

令和4年11月29日～令和5年3月24日

(b) 方法

対象地域のシカによる生活被害の調査データ(平成18～令和2年度)を委託業者(株式会社E G O)が解析し、その中から被害報告が多い等、考察する上で適切な2カ所(大字、字程度の範囲)を選び、地域の状況について現地調査を行う。そこで得られた情報をもとに、対象地域におけるシカの発生時期や場所、頻度についての地図や図表を作成し、出没傾向について可視化を行う。さらに出没傾向と因果関係の有無が想定される地形や天候などの環境条件について解析し、シカの市街地出没及び生活被害防止に有効な対策等を提案する。

④ 結果と考察

生活被害の調査データ解析結果及び現地(市役所)聞き取り調査の結果から対象地区は厚木市が岡津古久と上荻野(ゴルフ場周辺)、秦野市が曾屋、東田原、西田原及び葛葉川沿岸となり、それぞれの地区で現地調査を実施した。

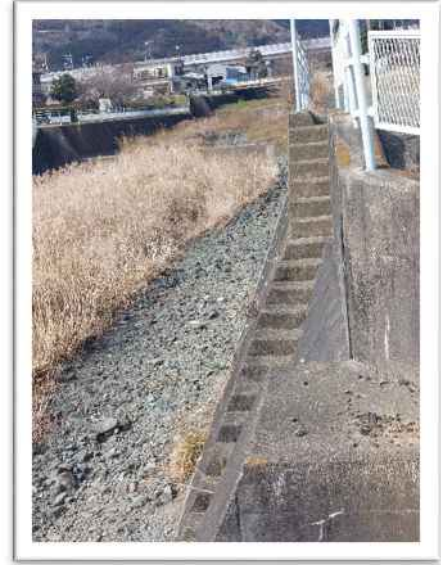
厚木市の岡津古久では日産テクニカルセンターを囲む緑地、同じく上荻野ではゴルフ場にシカが生息し、その周辺で生活被害が多発傾向にあることが確認された。

秦野市では葛葉川や金目川を通過して市内中心部への出没している可能性が推測され、特に葛葉川では川岸に降りるための階段が多数設置されていることからシカを含めた野生動物が頻繁に利用していると推測された。

出没傾向と因果関係については山麓線からの距離が大きく、土地の利用状況(農地や山林等)についても関係性が確認されたが、季節や気象条件については因果関係が少なく、道路工事や河川改修等の影響はないと見られた。



日産テクニカルセンター周辺（厚木市）



葛葉川に設置された階段（秦野市）

⑤ 対策提案

（a）市街地出没及び生活被害防止に有効な対策

●マニュアルに基づいた体制整備

シカの市街地出没は、全国的に問題となっており、各地で対応マニュアルが作成されている。神奈川県においても令和3年度に「神奈川県大型獣類市街地出没対応マニュアル」が取りまとめられた。県及び各地のマニュアルを参考に、対応部署、捕獲体制、連絡体制などを整える。

●出没対応訓練

体重が50kgを超える大型哺乳類を捕獲するには、危険が伴うため、実際の出没に備え、必要な備品の確保及び捕獲、追い払いなどの訓練を行う。

●ランドデザインの検討

出没や被害を防止するためには、リスク因子を減らしていくことが必要であるが、地形的要因については、対策が難しい。次に要因として大きい土地利用について、ハザードマップを用いながら、いつどのような土地管理をどこで行う必要があるかランドデザインを地域で検討する。

（b）出没が予想される場合の被害防止対策の実施時期

対象地域によって異なるが、生活被害報告を新たな区分で分けることによって、「採食」が行われる時期が把握できる。特に新区分の「ネット」は、「採食」のために農地、田を利用していると考えられるため、その時期に応じて、被害発生前に防護柵の設置や既存柵の整備、藪刈りなどを行うことが、出没の抑制につながると思われる。特に防護柵については、ネットの絡まりを防ぐために、電気柵の積極的な導入が望ましい。

(c) その他出沒との因果関係が想定されるもの

対象地域の聞き取りの結果、新型コロナウイルス感染症の影響により、有害駆除の実施が困難な時期があり、捕獲圧が著しく低下していたため個体数増加による今後の出沒の増加に注意が必要である。

市街地出沒リスク要因

No.	要素区分	項目	定義	設定根拠	点数
1	地形	山地・丘陵地に隣接	メッシュ区分が「森林 ^{※1} 」に該当する	森林はシカの主な生息地であるため。	1
2			最大行動圏 メッシュが山麓線の500m圏内に位置	現地踏査における痕跡確認箇所や過去の被害発生場所は山麓線から概ね500m圏内に位置していた。	1
3			最小行動圏 メッシュが山麓線の150m圏内に位置	過年度業務結果から、市街地へ出沒する野生動物は林縁の150m以内を集中的に利用する場合があることから、出沒危険度が高い。	1
4		市街地の中に帯状の緑地	メッシュ内に山麓線がある	森林に該当していなくても、シカの移動ルートや隠れ場所になり得ると考えられる。	1
5		動物が侵入できる河川周辺	河川沿いにフェンスが設置されておらず、藪、草地があり山林から河畔林等を利用し移動できる	シカの移動ルートや隠れ場所になり得ると考えられる。やぶ・草地などが該当する。	1
6	土地利用	好適環境（田 [※] ）	メッシュ区分が湿田・乾田・沼田・蓮田及び田に該当	食物供給量が多く、落葉広葉樹、農耕地、放棄耕作地、竹林、藪などがある環境には、シカがよってくると考えられる。	1
7		好適環境（その他農用地 [※] ）	麦・陸稲・野菜・草地・芝地・りんご・梨・桃・ブドウ・茶・桐・はぜ・こうぞ・しゅろ等を栽培する土地	シカが潜みうるかつ餌場になりえる環境。シカの食物供給量が不足している状況であると予想されるため、食物を求めて市街地および周辺農地へ出沒し、人との接触機会が上昇すると考えられる。	1
8	その他	大規模開発	森林地域及び山麓から500m以内で実施される場合	ハザードマップの高リスクメッシュのリスクがさらに上がる可能性がある。	(1)
9		河川工事		工事等の実施期間は要注意。工事の実施状況は流動的なため定量的なリスク因子としての評価は困難	(1)

※：国土数値情報 土地利用詳細メッシュデータの土地利用種別（平成21、26、28年度）

II かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

2 市街地に隣接した農林業地域における野生鳥獣の出没状況調査

(2) イノシシの市街地出没傾向調査

① 目的

近年、野生鳥獣の被害は農林業地域だけでなく、隣接した市街地での出没も問題になっている。そのため、地域ぐるみの取組を推進するためには、農業被害だけでなく市街地出没に伴う生活被害も考慮する必要がある。県内でもイノシシの突発的な市街地出没は増加傾向にあり、関係機関が連携した緊急対応を求められることが多くなっている。そこで、イノシシの市街地出没に係る原因と傾向を把握することで、地域が行う事前予測や対策等の基礎資料とし、地域ぐるみの取組支援に活用する。

② 対象地域

大磯町

③ 実施内容

(a) 実施期間

令和4年11月19日～令和5年3月24日

(b) 方法

対象地域のイノシシによる生活被害の調査データ(平成18～令和2年度)を委託業者(株式会社 Foresters P R O)が解析し、その中から被害報告が多い等、考察する上で適切な2カ所(大字、字程度の範囲)を選び、地域の状況について現地調査を行う。そこで得られた情報をもとに、対象地域におけるイノシシの発生時期や場所、頻度について地図や図表を作成し、出没傾向について可視化を行う。さらに出没傾向と因果関係の有無が想定される地形や天候などの環境条件について解析し、イノシシの市街地出没及び生活被害防止に有効な対策等を提案する。

④ 結果と考察

生活被害の調査データ解析結果及び町役場等の聞き取り調査の結果から対象地区は東小磯地区の善兵衛池周辺、高麗地区の生涯学習館周辺とし、現地踏査を実施。それぞれの地区でイノシシの痕跡(足跡、糞、ぬた場等)や誘引の要因(農作物、果樹等)、侵入経路となる河川の状況、対策(藪刈りや防護柵等)の実施状況を確認。

それらの調査結果を元に餌資源を目的としたイノシシ出没のハザードマップ(図1)と拡散や探索行動による意図しないイノシシ出没のハザードマップ(図2)を作製。

誘引物の管理や環境整備、捕獲の実施など対策が示された。

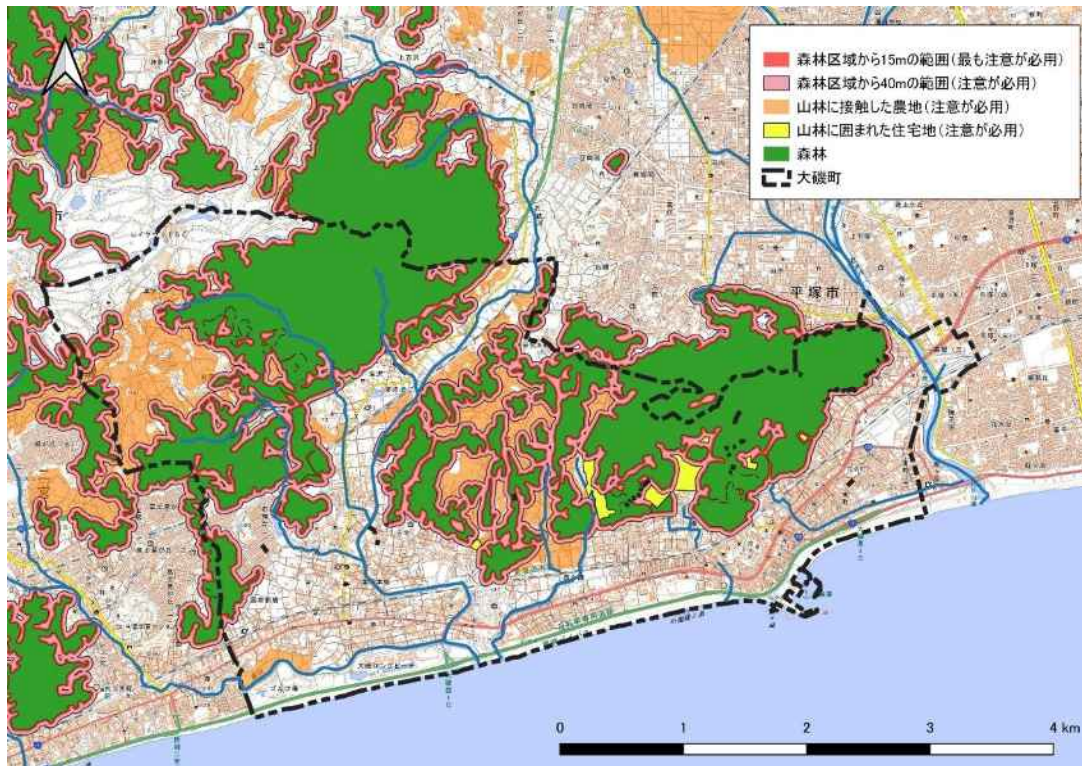


図1 山林周辺のイノシシの出没危険性ハザードマップ

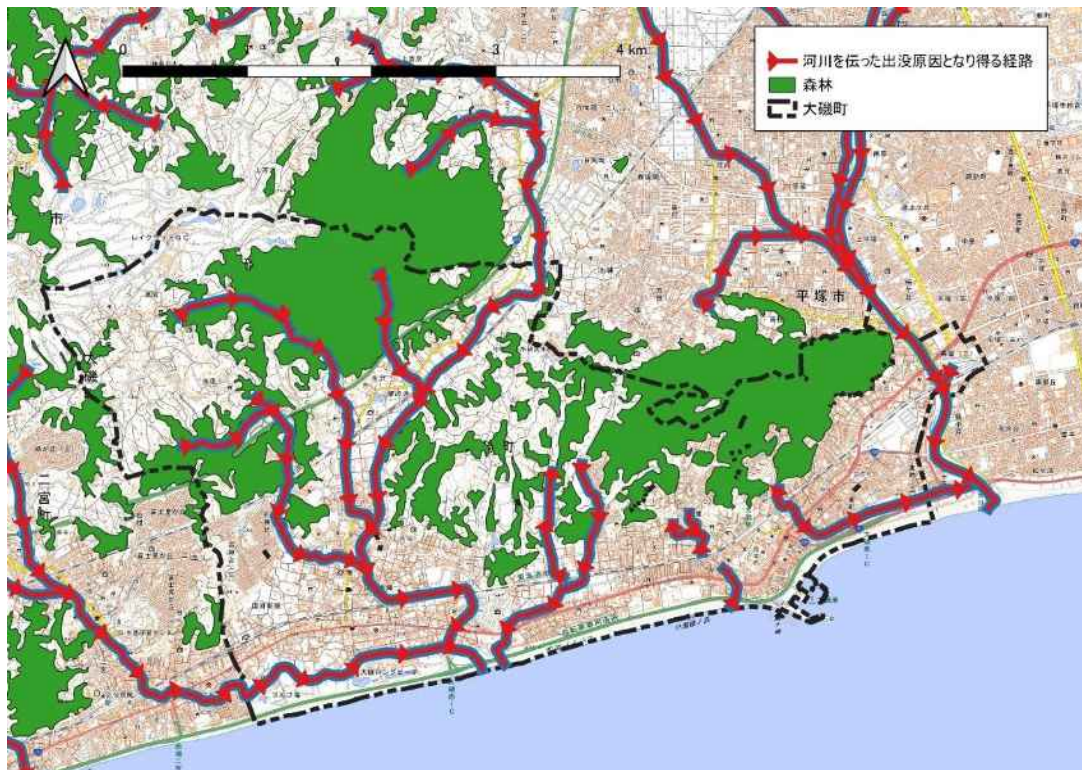


図2 河川を伝ったイノシシの出没危険性ハザードマップ

II かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

3 クマ被害防止の強化

① 目的

市町村が行う対策を支援するため、自動撮影カメラでクマの出没を監視し、また、里地周辺を利用する個体の情報の簡便な収集法として、野外で採取された糞を用いたDNA分析を行い、個体識別が可能か検証することでクマの出没に対する被害防止を強化すること。

② 対象地域

例年クマの出没が確認される、伊勢原市大山子易地域

③ 実施内容と結果

(1) 自動撮影カメラによる出沒監視

ア 実施内容

自動撮影カメラでの撮影内容を市町に情報提供。出没を特に迅速に把握したい場所では、通信機能付きの自動撮影カメラを活用。現地に行つてのデータ回収が不要のため、撮影映像をいつでも確認でき、クマの撮影確認後すぐに対応が可能。

【情報の活用方法】

・クマの出没の有無の確認…

撮影があつた場合は追払いなどの対策に繋げる。撮影が無ければ、出没が無くなった事の確認となり、地域に安心感を提供できる。

・対策の効果を確認…

防護柵などの対策場所を撮影し、対策が有効に機能しているかを確認。クマの行動を把握する事で、確実な対策を行える。

・クマを寄せ付けない環境整備作りに活用…

誘因物は何か、どれくらい執着しているかを把握。原因物の特定と迅速な除去を行える。

・特徴から出沒個体を個体識別…

繰り返し出沒する問題個体の検出や、地域に何頭のクマが出沒しているかの把握に役立つ。

イ 結果

【伊勢原市大山子易】

クマの出没が多い9～12月に設置。令和4年度は3個体の出没が確認され、そのうち強い執着が見られた1個体を学習放獣した。

(2) 糞から抽出したDNAの分析による個体識別（今年度は実施せず）

里地周辺を利用する個体の情報の簡便な収集法として、野外で採取された糞を用いたDNA分析を実施。糞から個体識別ができれば、より簡便、広域にクマの行動を把握できることや、捕獲個体と集落への出没個体が同一個体であるか同定できることが期待される。

令和4年度鳥獣被害対策支援活動報告会

クマ被害防止の強化

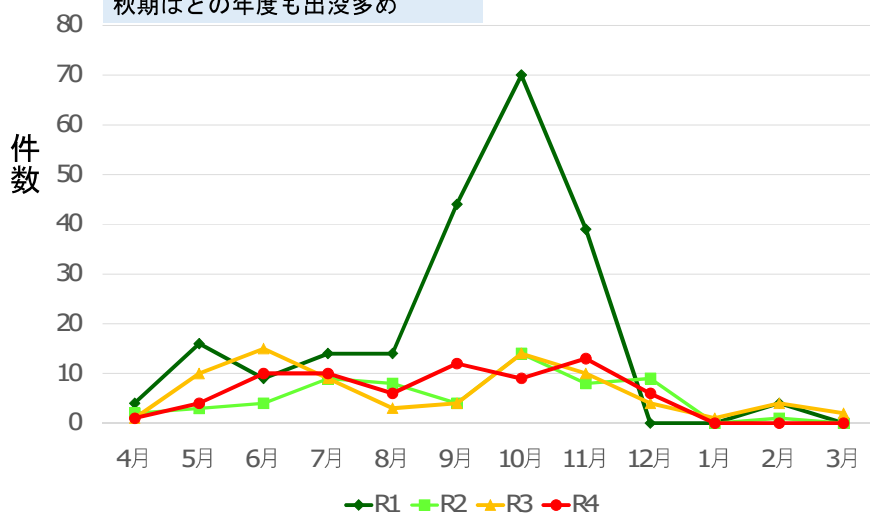


かながわ鳥獣被害対策支援センター
技師 成瀬 真理生

令和4年度 月別クマ出没状況

※撮影は含めない
※R4は12月までの記録

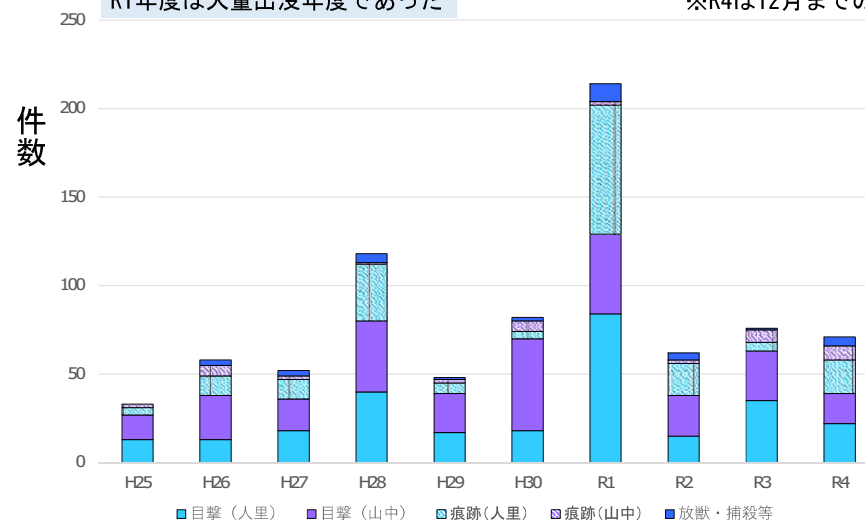
冬眠期以外は出没情報はあがるが、
秋期はどの年度も出没多め



年度別 県内クマ出没件数(凡例別)

平均81.6頭
R1年度は大量出没年度であった

※R4は12月までの記録



センサーカメラによるクマの監視

伊勢原市子易地区は生産柿の栽培が盛んで毎年クマの目撃情報が多いことから、早期のクマ発見情報共有のためセンサーカメラを設置しクマの動向の監視を行っている。このうち、カメラデータの回収とデータ解析を業者に委託している。

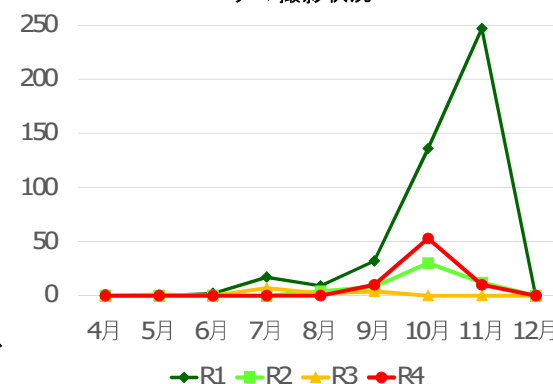
業務場所：伊勢原市子易地区
撮影期間：9月から12月まで

業務内容
カメラ設置箇所：約20ヶ所
データ回収頻度：1週間に1回
撮影データ解析：出現傾向等

・カキ園、移動路を中心に設置

・1週間ごとに撮影状況をまとめ、
湘南C、伊勢原市に情報共有

クマ撮影状況



※支援C直営調査含む

今後の取組み

○監視重点地区のセンサーカメラによる動向の把握

→情報の共有、対策に活用

→経年の出没傾向の解析

→個体の識別

○DNA鑑定による里に出没する個体の把握

→正確な個体識別

○出没情報からの現地対策

→果樹伐採、カキ落とし、電気柵

→それでも同一個体の出没が続く場合はドラム缶わなによる
捕獲・学習放獣

Ⅱ かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

4 豚熱に係るイノシシ広域監視

① 目的

イノシシの移動経路となりそうな緑地や河川、道路等の周辺に自動撮影カメラを設置し、撮影の有無や頻度を調査することで、イノシシの生息状況や移動の有無を広域的に把握し、イノシシによる豚熱の感染拡大防止に資する情報を得ることを目的とする。

② 対象地域

相模原市、厚木市、愛川町、清川村及び南足柄市地内

③ 実施内容

ア 実施期間（自動撮影カメラ設置期間）

令和4年12月～令和5年2月（2か月間）

イ 方法

対象地域において、自動撮影カメラ15台を設置。設置場所は、（1）連続した緑地の切れ目や分布域の端部、（2）河川沿い（相模川及び中津川）、（3）養豚施設周辺とした。2か月間設置したのち撮影データを回収し、イノシシを対象として、撮影回数または撮影頻度を月ごと、時間帯ごと、箇所等ごとにまとめた図表を作成。また、撮影の有無や傾向を視覚的に把握するために、地図上にヒートマップを作成。これらを元に、イノシシの広域的な生息状況と移動の傾向について考察する。

④ 結果と考察

- ・分布最前線の河川沿いでは撮影がなく、密度は低いと思われた。
- ・養豚施設周辺で撮影されている箇所があり、周囲に農地が多く、隠れる場所もあるため今後も注意が必要である。

⑤ 今後について

今回設置した15か所のうち、6か所（河川沿い2箇所、養豚施設周辺4箇所）は設置を継続する。これにより、年間を通じたイノシシの行動の把握をするとともに、養豚施設周辺の情報を地域の捕獲主体に随時提供する事で、捕獲の強化に繋げる。

また、令和5年度もイノシシの生息状況把握のための調査を別途実施予定しており、調査内容について検討していく。

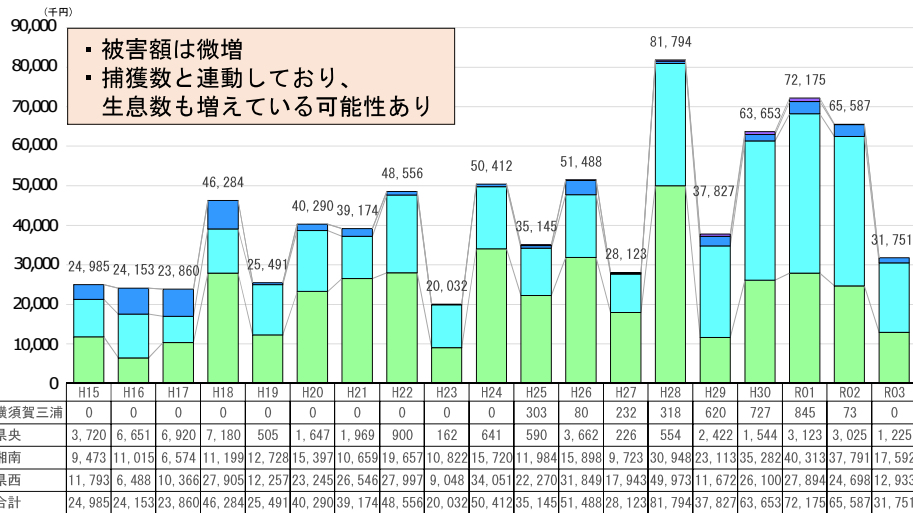
令和4年度鳥獣被害対策支援活動報告会

豚熱に係るイノシシ広域監視



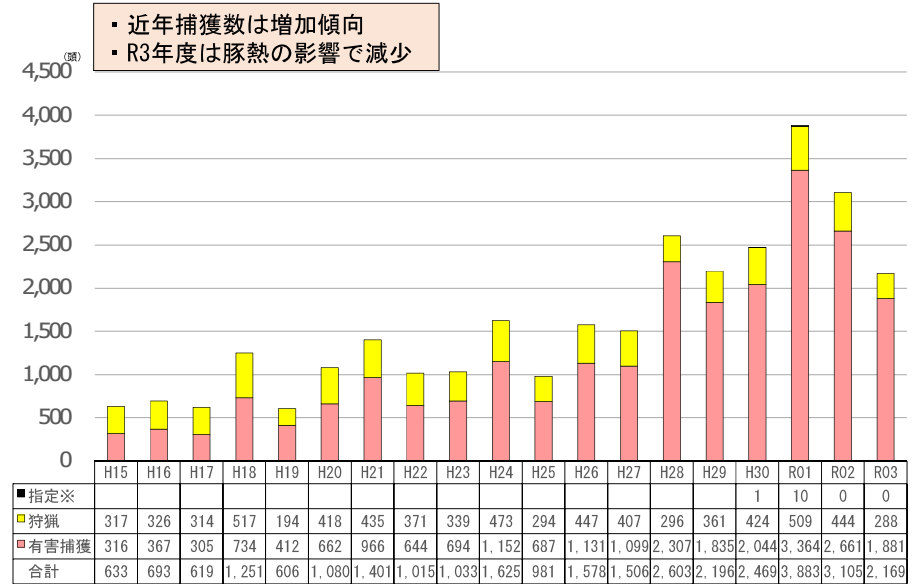
かながわ鳥獣被害対策支援センター
技師 成瀬 真理生

年度別 農作物被害額

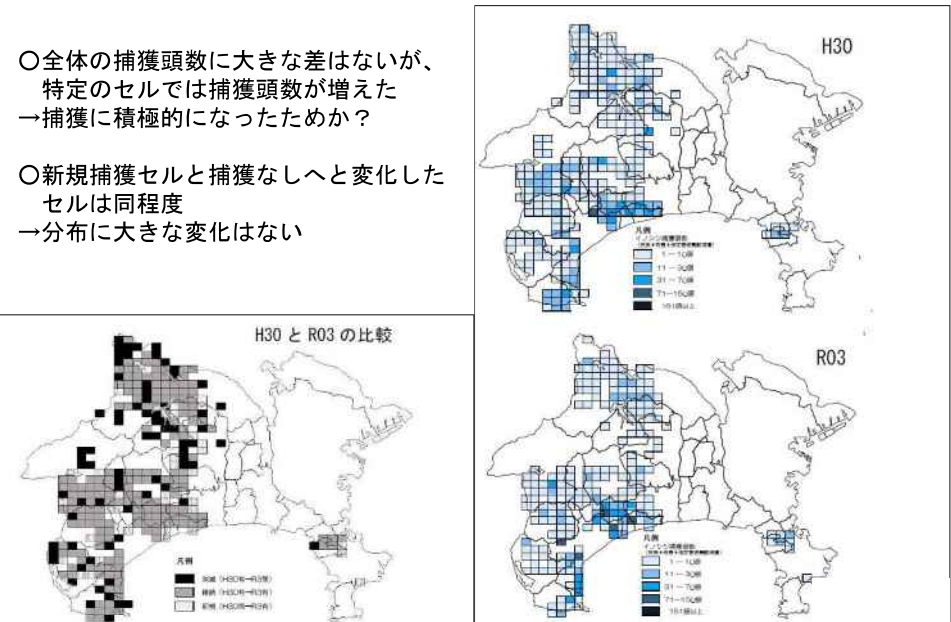


※千円未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計は一致しない。

年度別 県内イノシシ捕獲件数



年度別 県内イノシシ捕獲件数



県内の豚熱発生状況

野生イノシシへの豚熱の感染

- ・平成30年に岐阜県で発生して以降、35都府県で感染を確認。
- ・神奈川県内ではこれまでに95頭の陽性を確認（R5. 2. 8現在）
- ・R3までは感染が拡大し、個体数が減少したが、R4は感染が収束し、個体数が増加に転じたとの見方がある



今後の取組み

○継続的なセンサーカメラの設置

→長期間のモニタリングでイノシシの増減を把握

○設置場所の検討

→効率の良い生息状況の把握

→生息範囲拡大への監視

○出没情報からの現地対策

→養豚施設、市街地への侵入防止

→移動経路等の特定

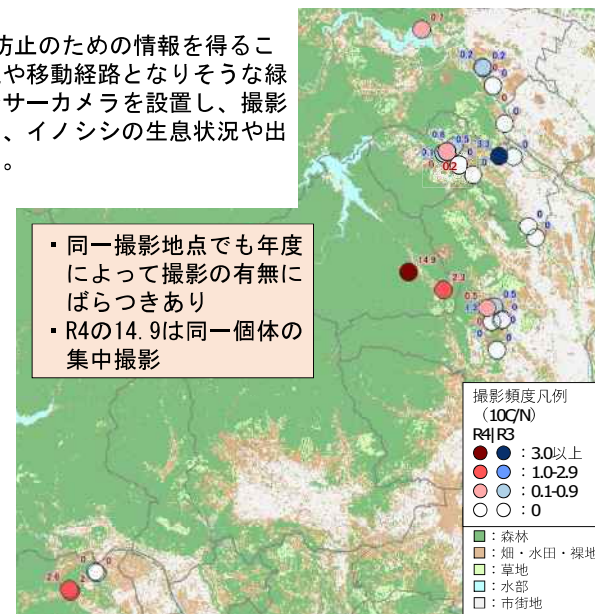
イノシシ生息状況の把握

イノシシによる豚熱感染拡大防止のための情報を得ることを目的として、養豚施設周辺や移動経路となりそうな緑地や河川、道路等の周辺にセンサーカメラを設置し、撮影の有無や頻度を調査することで、イノシシの生息状況や出現傾向を広域的に把握するもの。

業務場所：相模原市、厚木市、
愛川町、清川村、
(R4)南足柄市

撮影期間：(R3) 12/2～2/28
(R4) 12/21～2/17

設置箇所：(R3) 20ヶ所
(R4) 15ヶ所



- ・同一撮影地点でも年度によって撮影の有無にばらつきあり
- ・R4の14. 9は同一個体の集中撮影

Ⅱ かながわ鳥獣被害対策支援センターによる取組事例紹介

5 かながわ鳥獣被害対策アドバイザー制度（研修と活動）

① 概要

地域の鳥獣被害対策に係わる者が、対策の基本要素を習得し、日常的に活動する業務等に付随し、鳥獣被害対策のアドバイスを行うことで、地域における鳥獣被害防止対策が的確かつ効果的に進むことを目的とする。

② 研修

ア アドバイザー育成研修（全6回） R4年度受講者：17名

- 5月 関連法規と鳥獣の生態
- 7月 集落環境調査、被害の見分け方
- 9月 防護柵及びわなの種類と特徴
- 10月 環境整備について
- 11月 事例調査
- 3月 集落環境診断

イ アドバイザー登録者研修

- 5月 先進地視察（静岡県伊豆市） 出席者：16名
有害鳥獣処理施設（微生物による減容化装置）、食肉加工施設（ジビエ利用）
- 9月 鳥獣被害対策講演会 出席者：24名
講師：阿部 豪氏（野生鳥獣対策連携センター）
野生動物の市街地出没対策、中型獣類の生態と防除技術

③ 活動

ア アドバイザー登録者

72名（うち活動休止6名）令和5年3月現在

内訳

- 農協：48名、市町村：7名、NPO：6名、民間企業：3名
- その他：8名（農協や市町村職員等にも狩猟協会会員が含まれる）

イ 活動報告

年2回、所定の様式で主な活動（鳥獣被害対策）について報告。

ウ 活動内容（アドバイス等）

- ・鳥獣被害対策資材（柵、網、罟等）に関する相談
- ・鳥獣対策補助金に関する相談、申請補助
- ・鳥獣被害の低減（新作物の導入、環境整備等）に関する相談
- ・鳥獣被害対策講習会等の開催
- ・鳥獣被害調査の取りまとめ等
- ・有害鳥獣の捕獲駆除
- ・防護柵の設置

かながわ鳥獣被害対策 アドバイザー制度の取組

かながわ鳥獣被害対策支援センター

3. アドバイザーが行う助言等の内容

- (1)防除体制や防除資材等に係る助言
- (2)被害防止対策の担い手の育成
- (3)その他鳥獣被害防止対策の推進に係る助言

4. 研修(アドバイザー育成研修)

以下の内容の座学もしくは実技とし、すべての過程を受講した者に「修了証」を発行する。

- ア. **関連法規**(鳥獣保護法等)について
- イ. 農業被害を及ぼす**野生鳥獣の生態**について
- ウ. **集落環境調査**について
- エ. **環境整備**について
- オ. **防護及び捕獲**について
- カ. **集落環境診断**について

鳥獣被害対策アドバイザー制度概要

1. 目的

地域の鳥獣被害対策に係わる者が、地域ぐるみで行う鳥獣被害対策の基本要素を習得した上で、日常的に活動する業務に付随して、鳥獣被害対策についてもアドバイスを行うことで、地域における農作物の被害防止対策を的確かつ効果的に進める。

2. 対象者

日常的に活動する業務等で、地域の鳥獣被害対策に係わる者。

例)農協職員、市町村職員、猟友会会員、農業委員、自治会役員、NPO等

アドバイザー育成研修実施の流れ(R4年度)

5月	関連法規と鳥獣の生態
7月	集落環境調査、被害の見分け方
9月	防護柵及びわなの種類と特徴
10月	環境整備について
11月	事例調査
3月	集落環境診断、修了証授与

第1回 関連法規と鳥獣の生態(5月)

●開催地:平塚合同庁舎別館



鳥獣の関連法規と生態についての講義

第2回 集落環境調査、被害の見分け方(7月)

●開催地:秦野市蓑毛地区



集落環境調査



GISを使った地図作成の紹介

第3回 防護柵及びわなの種類と特徴

●開催地:平塚市土沢地区



防護柵の資材紹介



現地の防護柵を説明



捕獲用わなの設置法

第4回 環境整備について

●開催地:大磯町西久保地区



西久保地区の対策を視察。

第5回 事例調査

●開催地:南足柄市矢倉沢地区



地元協議会の取組、対策について、現地視察を交えながら説明。

<アドバイザーの活動>

日常業務に付随した鳥獣被害対策に関するアドバイス

例)防除資材の相談、防護柵の設置、補助金の申請、講習会の企画、捕獲指導etc



「かながわ鳥獣被害対策アドバイザー活動報告書」の提出(年2回)



情報共有、支援Cからの助言

第6回 集落環境診断演習

●開催地:JAグループ神奈川ビル



1つの地域について、課題点を挙げつつ、対策を考える。

これまでのアドバイザー登録人数

- 平成30年度 登録13名(うち休止3名)
- 令和元年度 登録11名(うち休止2名)
- 令和2年度 登録9名(うち休止1名)
- 令和3年度 登録22名
- 令和4年度 登録17名

(様式4) (用紙 日本工業規格A4縦長型)
 かながわ鳥獣被害対策アドバイザー活動報告書

報告期日 年 月 日 氏名

活動内容1 期日 場所 対象 内容	活動内容2 期日 場所 対象 内容
活動内容3 期日 場所 対象 内容	活動内容4 期日 場所 対象 内容
相談の予定等	
コメント	コメント記載者()

アドバイザーの活動事例



●イノシシ捕獲檻の点検



●環境整備

アドバイザー登録者研修

- ①「かながわ鳥獣被害対策アドバイザー活動報告書」に基づく情報交換
- ②鳥獣被害対策支援活動報告会
- ③講演会、先進地視察、実技研修等

令和3年度 先進地視察

●開催地: 浜田牧場(平塚市)、阿夫利山荘(伊勢原市)



浜田牧場
 カラス檻による捕獲等、カラス被害対策
 阿夫利山荘
 イノシシ等の食肉加工(ジビエ活用)

令和4年度 実技研修会

●開催地: JA湘南大田支店(伊勢原市)、講師: (株)スカイシーカー



ドローンに関する法令、操作、活用方法等

令和4年度 先進地視察

●開催地: イズシカ問屋(静岡県伊豆市)



有害鳥獣処理施設(微生物による減容化装置)
食肉加工施設(ジビエ活用)

令和4年度 鳥獣被害対策講演会

●開催地: 県平塚合同庁舎 講師: 阿部 豪氏(野生鳥獣対策連携センター)



野生動物(イノシシ、サル、クマ等)の市街地出没対策

中型獣類(アライグマ、ハクビシン等)の生態と防除技術

Ⅲ 県内の先進取組事例



～箱根山地の現状と小田原くくり農塾のとりにくみ～
NPO法人おだわらイノシカネット 川島範子・小川晋一



これからお話しすること



- 1.箱根山地の被害の現状と ササの調査
- 2.小田原くくり農塾のこと ～捕獲者の育成事業～
3. おまけ





A 足柄峠北部
噛み折り採食されたハコネダケ

ササの種類と退行について

種名	生長点	食圧高い	生き残り	備考
スズダケ	高い	×	×	丹沢で枯死
ミヤマクマザサ	低い	◎	◎	丹沢で生き残っている
ハコネダケ高性	高い	×	×	箱根に広く分布
ハコネダケ	低い	△	調査中	箱根に広く分布
アズマザサ	調査中	調査中	調査中	交配種(ハコネダケ×ミヤマクマザサ)
ハコネナンプスズ	調査中	調査中	調査中	交配種(スズダケ×ミヤマクマザサ)



足柄峠カメラに映った噛み折り採食

足柄峠 高性ハコネダケ
噛み折り採食で退行中

■ 低性ハコネダケの耐性を調査中

枯死退行
→ 土壌流出の可能性



C. 採食で緑乏しくなったハコネダケ
足柄幹線林道沿い

2022.11より捕獲実施中



生息密度の高い地域
ハコネダケ矮性化
↓
累積により枯死の可能性



2022.イノシカネット捕獲地
小田原市久野エリア

- ワナ塾と塾生チーム
- 2020~21年度捕獲地
- 会員チーム



小田原市早川エリア
南部でもシカ密度上昇中!



2020年度~2022年度 小田原市民提案型協働事業
「小田原くくり畠塾」開催

7月開講式 3月終了(10か月間)
水曜日と日曜日に、
見回り・捕獲・解体実習
毎年20~30名を受け入れ
参加者は毎月2~3回
実習に参加



都市部から小田原に移住する方も





ワナ設置講習



カモフラージュの方法
誘導の仕方いろいろ

2022/8/22 12:52



けもの道の見方
ワナ設置の方法

め



捕獲とめさし
電機止めさし機

保定方法

- チョンがけ
- 角保定
- 鼻くくり(イノシシ)





解体・精肉講習

今年度、ワナ塾での捕獲は67頭。

とめさし、解体を繰り返し体験していただきます。



搬出・運搬

舟・道板
荷台に乗せる

牽引方法

滑車を使用
道下から
引き上げる



いろいろな知識講習会



野生動物保護管理事務所、森洋佑さん講習会

- ・「環境省の取り組み」千葉康人氏
- ・「神奈川県での取り組み」鈴木哲平氏
- ・「申請・助成等の知識」小田原市農政課・環境保護課
- ・「地域ぐるみのイノシシ対策」
かながわ鳥獣被害対策支援センター
- ・「イノシシの捕獲について」稲毛竹男氏
- ・「動物による感染症の知識」大石沙織氏
- ・「シカはどこで増えるのか？」古林賢恒氏
- ・「箱根被害地見学会」箱根町環境課



被害地見学会

- ・「ジビエ・野外料理」ジャパンマルチハンター
- ・「皮のなめし方」イノシカネット 廣川明子氏
- ・「救命救急講習」救命士 京増敏彦氏



10/30静岡県林業センター 大橋氏講習会

生態・捕獲・
ワナの仕組みなど



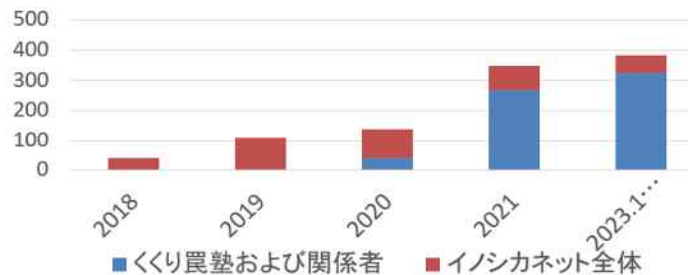
1/22集落環境調査 かながわ鳥獣被害対策センター 石川氏・島田氏



ドローンで航空写真を作成
被害や痕跡を記入、
見える化

地域の対策・戦略を考える
手法を学びました!

人材育成により活性化、 捕獲数も増加しています。



箱根山地のシカ生息密度低下へ!

チームでの活動を推奨 山地でのシカの捕獲 2~10数名のチームでシフトを組み 報奨金をシェア

山地の林道 3チーム
農地等 2チーム
都市部在住者も活動に参加

ワナ塾ICT出動
ICT通報あれば当番が出動

経験を積んだ塾生を
ワナ塾講師に登用 (現在7名)

穂田理事長がワナを作成
会員に安くワナを提供

小田原市
有害捕獲奨励金7000円
とめさし助成3000円
ジビエに出すと2000円
ワナ助成
新規参入者20000円
3頭で更に20000円



ワナ塾卒業生の活躍

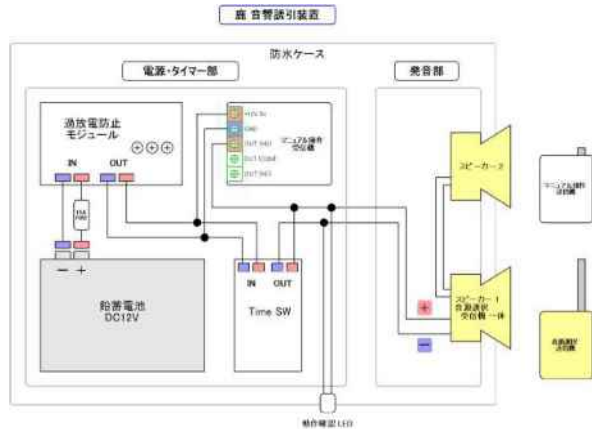
- 解体施設 ジャパンマルチハンターズ
- ジビエカレーの開発
- ペットフード・なめし皮
- 捕獲関連機器の開発



2023.2.11 JMH主催 シンポジウム ジビエを観光の目玉に!

鹿音響誘引装置の開発

- 鹿を音声により誘引する
- 音源は「ラッティングコール」「小鹿の鳴き声」等
- どのような音声をどの時期に流すと効果的か？
- 不明な点が多く手探り状態



取付状態



内部

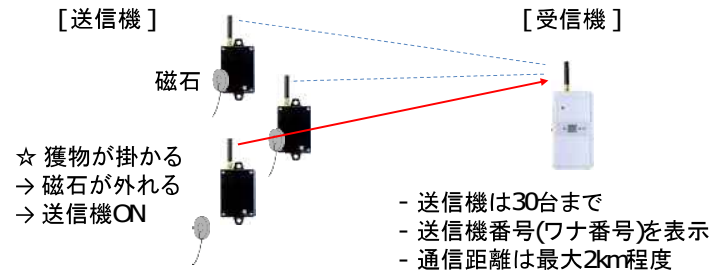


スマホ受信型 簡易ワナ作動通知システムの開発

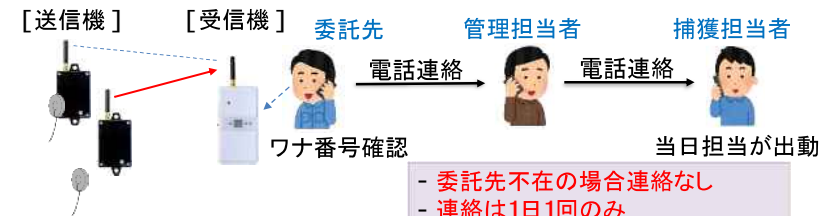
ICT(Information and Communication Technology)装置とは？

- ワナに獲物が掛かったことを無線で知らせる機器です。
- 捕獲者のワナの見回りの負担を減らし、効率的に捕獲を行うための機器です。

(現状使用している ICT装置の仕組み)

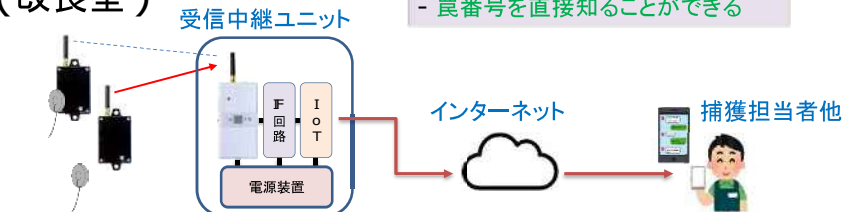


(現状)



- 委託先不在の場合連絡なし
- 連絡は1日1回のみ
- 委託料 1万円/月 * 現状
- 罾番号を直接知ることができる

(改良型)



- 24時間・365日 リアルタイムで通知
- 通信費 150円/月 程度
- 受信中継ユニットの設置場所・メンテナンスが必要
- 簡易型のため罾番号を直接知ることができない

7月2日(日)
AM9:00～
開講式

林道奥地にてくくり罠による捕獲実習
小田原くくり罠塾

見回り
点検
捕獲
止めさし
解体
各種講習会

将来、小田原、箱根山地のシカ・イノシシの捕獲ができる方、ワナ免許
習得に意欲のある方募集します！

令和5年度も、
小田原くくり罠塾開催予定！

参考資料 《かながわ鳥獣被害対策支援センターの取組》

1 地域別、内容別の対応件数

令和5年3月31日現在

【地域別】

★合計★ 1,158

横須賀三浦	54
県央	207
湘南	374
県西	257
横浜川崎	39
その他	227

【内容別】

★合計★ 1,158

問合せ照会回答	22
現場での技術指導アドバイス	103
打合せ調整	761
会議等参加	38
講師	46
野生動物捕獲対応	64
現地調査	99
クマ調査	25

2 講師派遣一覧

46 回

期日	派遣先	主な参加者	実施した技術指導など
R4.4.2	秦野市 名古木地区の有害鳥獣防護柵設置	地域住民、JAはだの職員など	柵の管理指導
R4.4.23	NPO 法人おだわらいノシカネット 小田原くくり罠塾	塾生、会員など	集落環境調査手法
R4.5.10	秦野市 大根、本町地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、JAはだの組合員など	捕獲檻の管理指導
R4.5.11	秦野市 東地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、JAはだの組合員など	捕獲檻の管理指導

R4. 5. 13	秦野市 北地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、J Aはだの組合員など	捕獲檻の管理指導
R4. 5. 16	秦野市 上地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、J Aはだの組合員など	捕獲檻の管理指導
R4. 5. 18	秦野市 西地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、秦野市職員、J Aはだの組合員など	捕獲檻の管理指導
R4. 6. 3	伊勢原市 大山地区有害鳥獣対策協議会鹿柵管理	J A湘南組合員、伊勢原市職員など	シカ柵の管理指導
R4. 6. 24	県立藤沢西高等学校 「総合的な探求の時間」講義	高校生	支援センター業務紹介、クリハラリス調査
R4. 7. 9	中井町 大久保地区有害獣勉強会	地域住民、中井町職員	イノシシの生態・対策、集落環境調査結果報告
R4. 7. 29	丹沢ツキノワグマ研究会 山北町サマースクール「みて・さわって・かんじて、クマ博士になろう！」	小学生	クマの種類、生態、クマ対策、クイズ、糞分析体験
R4. 8. 21	南足柄市 広町地区電気柵講習会	地域住民、南足柄市職員	電気柵設置方法
R4. 9. 22	J A西湘 サル追い払い煙火講習会	講習会受講者	ニホンザルの生態と追い払い方法
R4. 9. 27	かながわ農業アカデミー 鳥獣被害対策講義	生徒	神奈川県内の鳥獣被害の現状と鳥獣の生態、対策
R4. 9. 29	J Aあつぎ農業塾	塾生、J Aあつぎ組合員など	鳥獣被害の紹介及び対策指導、事業者からの電気柵の紹介
R4. 10. 4	秦野市 北矢名、大根、南地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、J Aはだの組合員など	捕獲檻の管理指導
R4. 10. 5	秦野市 東地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、J Aはだの組合員など	捕獲檻の管理指導
R4. 10. 6	秦野市 北地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、J Aはだの組合員など	捕獲檻の管理指導
R4. 10. 11	秦野市 上地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、J Aはだの組合員など	捕獲檻の管理指導
R4. 10. 12	秦野市 西地区捕獲檻の現地検討会	地域住民、J Aはだの組合員など	捕獲檻の管理指導
R4. 10. 16	小田原市 NPO法人小田原イノシカネット「くくり毘塾」	事業者、塾生など	地域ぐるみの対策
R4. 10. 21	伊勢原市 大山地区有害鳥獣対策協議会鹿柵管理	J A湘南組合員、伊勢原市職員など	シカ柵の管理指導
R4. 10. 28	相模川磯部堰土地改良区連合 鳥獣被害対策勉強会	組合員など	鳥獣の生態と対策の説明

R4. 11. 3	松田町 まつだハンター塾・松田地区	松田町民	狩猟免許、動物の生態、 罨猟のやり方等講義
R4. 11. 5	松田町 まつだハンター塾・寄地区	松田町民	狩猟免許、動物の生態、 罨猟のやり方等講義
R4. 11. 18	伊勢原市 大山地区有害鳥獣対策協議会鹿柵 管理	J A湘南組合員、 伊勢原市職員など	シカ柵の管理指導
R4. 12. 2	東京環境工科専門学校 横須賀三浦地域の二子山山系で実 習	東京環境工科専門 学校生、教員	イノシシの痕跡調査、ク リハラリスの痕跡調査・ コールバック調査、地図 読み等
R4. 12. 5	秦野市 市重点取組地区の三廻部地区勉強 会	地域住民、秦野市 職員	鳥獣の基礎知識と被害対 策等
R4. 12. 6	東京環境工科専門学校 キャリア演習	専門学校生	支援センターの活動内容
R4. 12. 7	J Aはだの 捕獲檻現地巡回検討会結果報告会 (前半)	地域住民、J Aは だの職員など	捕獲檻現地巡回検討会ま とめと提案
R4. 12. 8	J Aはだの 捕獲檻現地巡回検討会結果報告会 (後半)	地域住民、J Aは だの職員など	捕獲檻現地巡回検討会ま とめと提案
R4. 12. 8	秦野市 市重点取組地区の西田地区勉強会	地域住民、秦野市 職員	鳥獣の基礎知識と被害対 策等
R4. 12. 9	東京環境工科専門学校 横須賀三浦地域の二子山山系で実 習	東京環境工科専門 学校生、教員	イノシシの痕跡調査、ク リハラリスの痕跡調査・ コールバック調査、地図 読み等
R4. 12. 21	山北町 放課後等デイサービスど んぐりん	児童など	防災教室「野生動物に出 会ったらどうするのか」
R5. 1. 13	J Aはだの蓑毛地区 動物駆除用煙火取り扱い講習会	講習会受講者	煙火を用いた追い払い、 シカ・イノシシ・クマの 生態
R5. 1. 20	J Aはだの上地区 動物駆除用煙火取り扱い講習会	講習会受講者	煙火を用いた追い払い、 シカ・イノシシ・クマの 生態
R5. 1. 22	小田原市 NPO法人小田原イノ シカネット「くくり罨塾」	事業者、塾生など	集落環境調査の方法と対 策、鳥獣被害の痕跡調査
R5. 1. 25	J Aはだの くくり罨取扱い研修会	講習会受講者	捕獲手順について等
R5. 1. 27	大山丹沢山系鳥獣等問題市町村議 員連絡協議会研修会	市町村議会議員な ど	野生鳥獣対策等のよくあ る誤解について
R5. 2. 16	J A湘南 有害鳥獣捕獲従事者講習会	J A湘南組合員	対象鳥獣の生態および猟 具の取り扱い
R5. 2. 27	伊勢原市有害鳥獣対策協議会 有害鳥獣捕獲従事者講習会	J A湘南組合員、 伊勢原市職員など	対象鳥獣の生態および猟 具の取り扱い

R5. 2. 28	農業技術センター 農業基礎セミナー	受講者	鳥獣対策の基礎
R5. 3. 2	東京神奈川森林管理署 有害鳥獣捕獲(わな)研修	管理署職員	捕獲技術
R5. 3. 6	J A 西湘 柑橘安定経営研修会	J A 西湘組合員	果樹の鳥獣害対策
R5. 3. 8	J A はだの 有害鳥獣捕獲従事者補助者向け講習会	J A はだの組合員	捕獲対象動物の生態、捕獲時に使用される猟具の取り扱い、作業時の危険
R5. 3. 14	J A 西湘曾我の里支店運営委員会 上曾我、羽根尾、曾我山の鳥獣対策の取組み報告会	J A 西湘曾我の里支店運営委員	上曾我、羽根尾、曾我山の各地域の特徴、調査、取組み、成果

3 委託業務一覧

- (1) 令和4年度ニホンザル生息状況調査業務委託
- (2) 新機材の導入によるイノシシ捕獲の試行業務委託
- (3) 令和4年度 AI 技術の一部導入による野生動物を対象とした自動撮影カメラのデータ回収および解析調査業務委託
- (4) ツキノワグマの行動把握を目的とした自動撮影カメラのデータ回収及び解析業務委託
- (5) 令和4年度イノシシ捕獲業務委託
- (6) 令和4年度自動撮影カメラを用いたイノシシ生息状況調査業務委託
- (7) 日向群ニホンザル GPS 首輪装着業務委託
- (8) 市街地及び隣接した農林業地域におけるシカの出没状況調査に係る業務委託
- (9) 市街地及び隣接した農林業地域におけるイノシシの出没状況調査に係る業務委託
- (10) ドローンを用いたクリハラリスの生息状況調査の試行業務委託